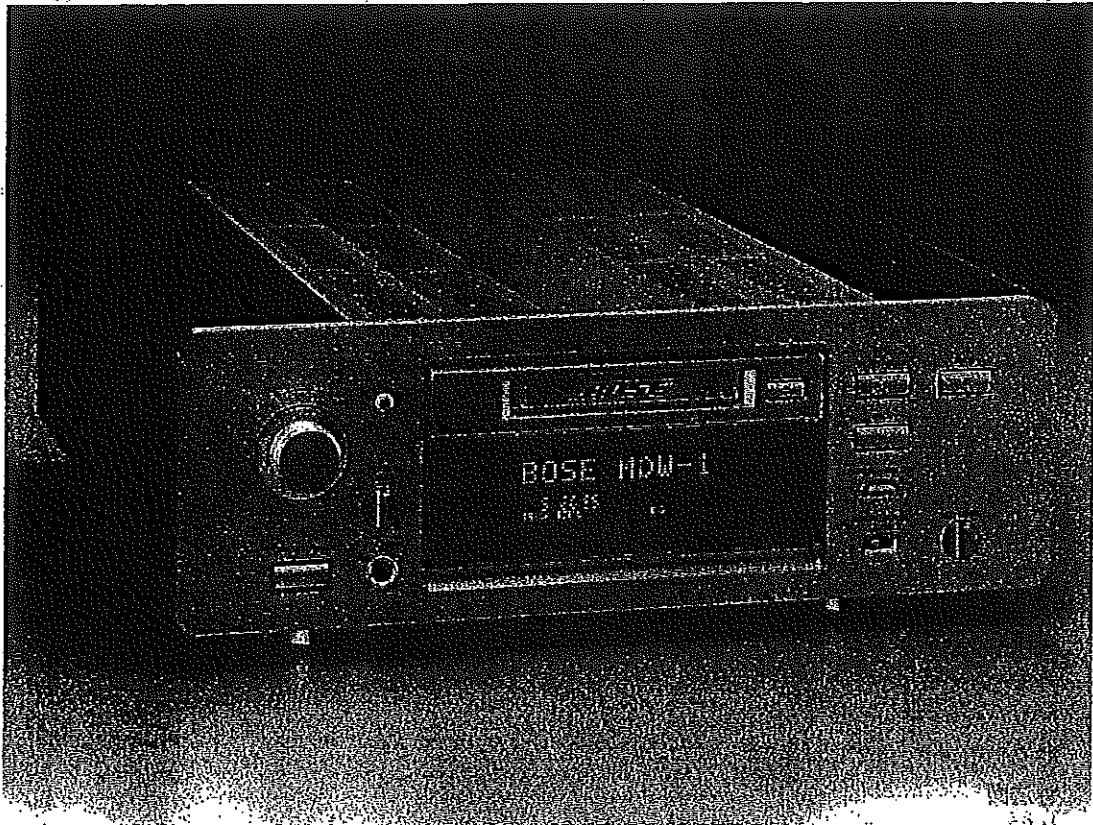


MDレコーダー

MDW-1

この度はMDW-1をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。

MDW-1取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

目次

安全上の留意項目	3
特長	6
結露について	7
本体のお手入れについて	7
開梱時のご注意	7
MDW-1と外部機器との接続	8
ボーズのCDアンプと組み合わせる場合	8
他のオーディオコンポと接続する場合	9
リモコンキーの名称と使い方	10
リモコンの使い方	10
電池の入れ方	10
リモコンの動作範囲	11
電源ON/OFFのしかた	12
システム上の制約について	13
シリアルコピーマネージメントシステムについて	13
MD(ミニディスク)の取り扱いについて	14
MDについて	14
ボーズのCDアンプと組み合わせて使う	16
MDの音をボーズのCDアンプから聴く	16
ボーズのCDアンプ(PLS-1310、PLS-1210、SSS-1MC)からの音声をアナログ録音する	18
PLS-1310、SSS-1MCからCDをデジタル録音する	23
ボーズのCDアンプ以外のオーディオコンポと組み合わせて使う	25
MDの音をオーディオコンポから聴く	25
アナログ録音をする場合	26
デジタル録音をする場合	28
聴きたい曲を選ぶには(リモコンでダイレクト選曲)	31
聴きたい曲を選ぶには(ジョグダイヤルを使って選曲)	31
聴きたい所をさがすには(サーチ)	32
繰り返し再生するには(リピート)	32
ランダム(曲順不同)再生のしかた	32
AUTO MARK(オートマーク)について	33
時間表示の切り替えのしかた	34
モノラル長時間録音と再生について	34
録音したMDの編集について	35
停止中に行なう編集機能	35
1. ディスクの内容を全て消す (ALL ERASE)	35
2. ディスク名を消す (DISC NAME ERASE)	36
3. ディスク名を書き込んだり修正する (DISC NAME EDIT)	37
再生中に行なう編集機能	38
1. 曲名を書き込んだり修正する (TRACK NAME EDIT)	39
2. 曲を2つに分ける (DIVIDE)	40
3. 前後の曲をつなげて1曲にする (COMBINE)	41
4. 曲番を移動する (MOVE)	42
5. 1曲だけ消す (ERASE)	43
光デジタル端子の使い方	44
本機の光デジタル信号を外部機器でデジタル録音する場合	44
各部の名称および機能	46
パネルの文字表示一覧表	48
故障かな?と思ったら	49
故障の場合のお問い合わせ先	49
寸法図	50
仕様	51
保証	51

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死にまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



△記号は行為を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告



電源プラグを
コンセントから
抜け

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



水場での使用
禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。



使用禁止

- 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。






警告

	<p>通風孔のある機器のみ</p> <p>●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。</p> <p>この機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。</p>
	<p>●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。</p>
	<p>●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。</p> <p>●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>●この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p>
	<p>●この機器の裏面、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>●電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p> <p>ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ</p> <p>●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（ワット/容量）数を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。</p>
	<p>●シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品やクレンザーなどは、変色や傷を付ける原因となりますので使用しないでください。</p>



注意

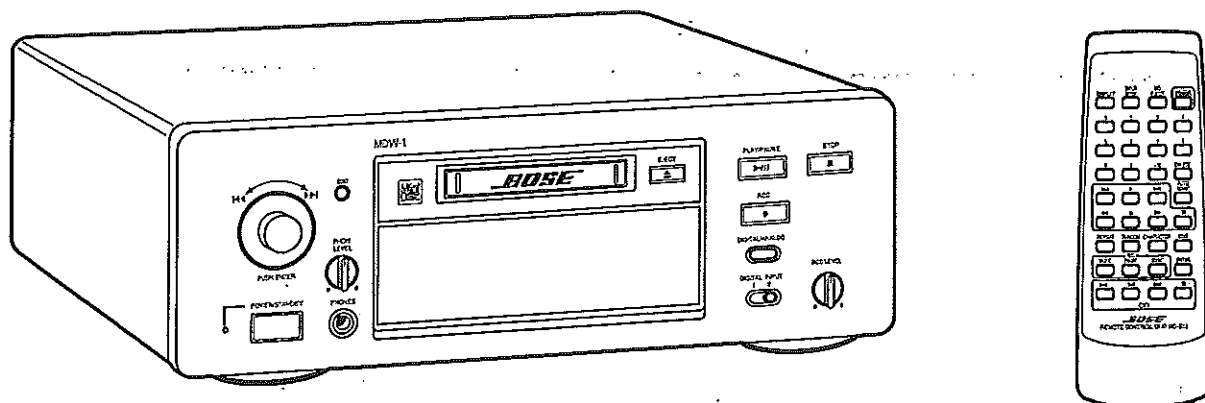
	<p>●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>電池を使用する機器のみ</p> <p>●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
	<p>●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
	<p>●約5年に一度は機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったら、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p> <p>●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。</p> <p>※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	<p>●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。</p>
	<p>●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。</p>
	<p>●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。</p>

		<p>●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。</p>
<p>注意</p>		<p>●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。</p>

音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

※あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。



モノラル長時間録音対応

ステレオ分のスペースをモノラルにして、2倍の録音を可能にするモノラル長時間録音に対応しています。例えば74分のMDならば、148分の録音が可能です。

BS、CS、DATからそのままデジタル録音ができるサンプリングコンバーター内蔵

BS、CS、DATなどの、MDとは異なるサンプリング周波数を使ったデジタル信号も、自動的に44.1kHzに変換してそのままデジタル録音ができます。

ボーズのCDアンプとの組み合わせによるシンクロ録音スタート機能

ボーズのCDアンプPLS-1310、PLS-1210、SSS-1MCと組み合わせると、リモコンのキーひとつでシンクロ録音スタートが可能になります。

曲順の変更や、曲の分割・合成を簡単に操作

曲順を変えたり、曲を分ける、つなぐの編集が簡単にできます。

ディスク名や曲名を自由に変更

アルファベット大文字、小文字、数字、記号、カタカナでディスク名や曲名を、それぞれ64文字まで入れられます。

瞬時に全曲、1曲の消去が可能

今までのカセットと異なり、瞬時に一曲でも全曲でも消去することができます。

伝送効果に優れた金メッキ処理による入力端子

アナログ信号の入口・出口となる入力端子は、伝送ロスを最小限にとどめるために、金メッキ処理を施しました。

さらに便利な機能を発揮できる赤外線リモコン付属

本機だけでなく、ボーズのCDアンプについても、CDプレーヤー部の主な操作に対応できる多機能リモコンを付属しました。

不要な電磁波ノイズを抑える銅メッキシャーシを採用

デジタルオーディオ機器内で発生する電磁波の影響を低減させる銅メッキシャーシを採用。音楽信号に影響を与える高周波の電磁波による歪成分を抑えています。

高音質で手軽なダビングを可能にする光デジタル出力端子装備

ミュージックMDや、アナログ録音したMDを他のデジタル機器で、簡単に高音質でダビングができる光デジタル出力端子を装備しています。

サイドパネルにバースアイメーブル調M.D.Fを採用

内部損失の大きいM.D.Fをサイドパネルに採用。シャーシの剛性を高め、音をにごす不要な振動を大幅に減少させています。また、バースアイメーブルはボーズのCDアンプPLSシリーズとデザイン的にも最適な組み合わせです。

◆ 結露について ◆

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。MDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ(ピックアップのレンズ部分)に霧が生じ(結露)、レーザーによるミニディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。

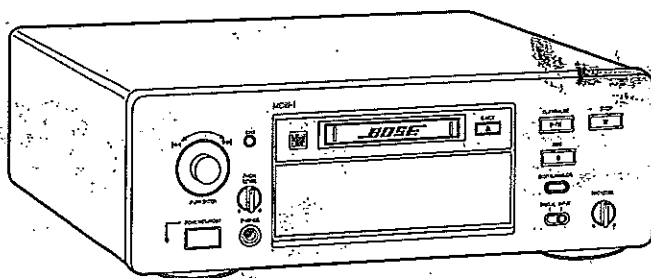
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

◆ 本体のお手入れについて ◆

通常は、やわらかい布でから拭きをしてください。汚れがひどいときには、中性洗剤を水で薄めた液にやわらかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

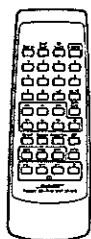
開梱時のご注意

内容物を確認してください

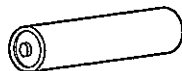


本体 (MDW-1) ×1台

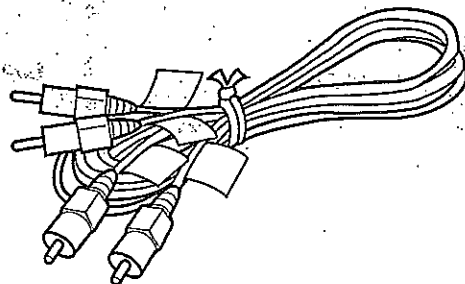
もし開梱時に損傷などが発見された場合や、内容物が不足しているときはそのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでの使用はおやめください。



リモコン
MD-S11×1個



リモコン用電池 (単3型)×2本



オーディオピンケーブル (1m) ×2本

※光デジタルケーブルは付属しておりません。別途ご用意ください。

MDW-1と外部機器との接続

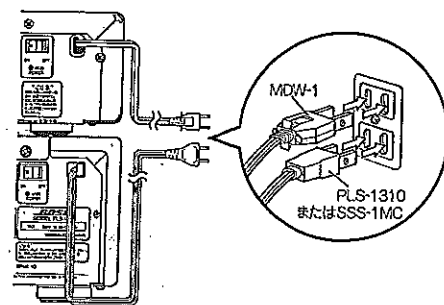
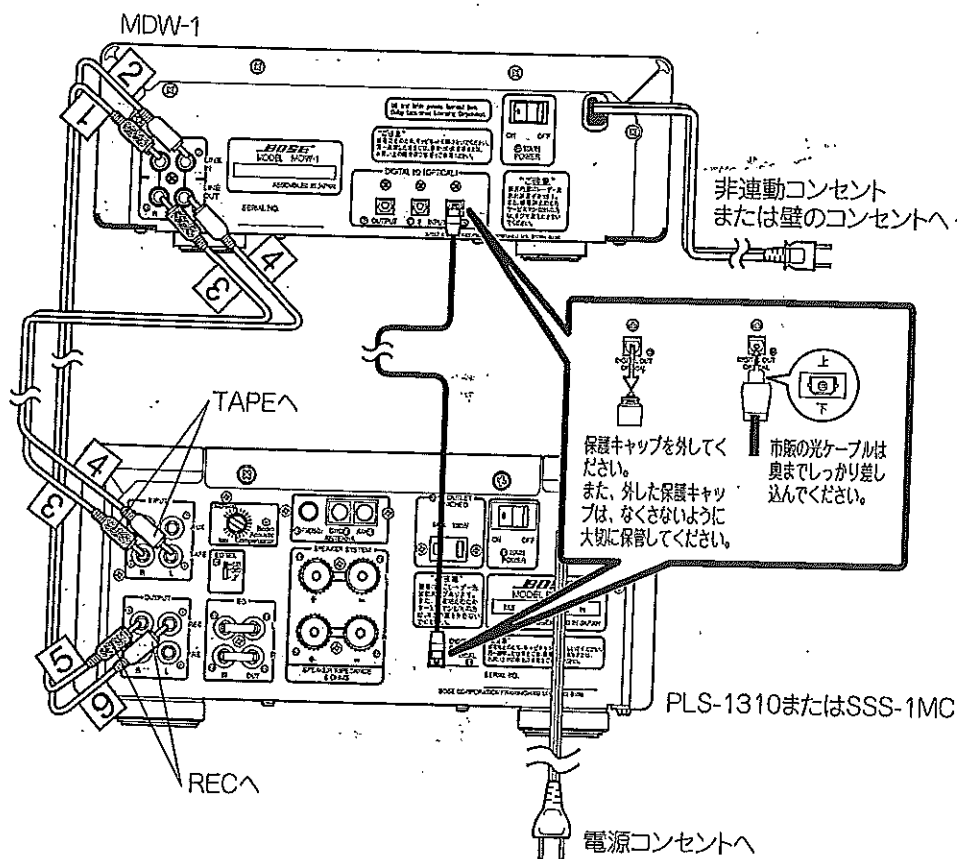
⚠ 注意 全ての接続が終わるまで全ての機器のプラグはコンセントからぬいておいてください。

●ボーズのCDアンプと組み合わせる場合

本機はボーズのCDアンプPLS-1310、PLS-1210※、SSS-1MC(SSS-1EXのCDアンプ部)と組み合わせることで、シンクロ録音スタートなど便利な機能を使うことができます。また、PLS-1310、PLS-1210とはデザインも統一感を持たせていますのでインテリア的にもまとまります。

※PLS-1210にはデジタル出力機能はありません。PLS-1210とMDW-1を組み合わせる場合はCDのアナログ録音だけになります。

図のように付属のオーディオピンケーブルを使って接続します。また、PLS-1310またはSSS-1MCと本機を接続してデジタル録音をする場合は市販の光デジタルケーブル(角型、EIAJ 標準)を用意してMDW-1のDIGITAL I/O(OPTICAL)INPUT(1あるいは2)とPLS-1310またはSSS-1MCのDIGITAL OUT OPTICALを接続してください。



⚠ 注意

MDW-1の電源プラグは必ず壁のコンセントなど他の機器の電源に連動しないところへつないでください。

⚠ 注意

MDW-1とボーズのCDアンプはできるだけ近くに置いてください。MDW-1のリモコンでCDアンプも同時に操作するので離しすぎると誤動作の原因になります。

・光デジタル出力端子の付いていない機器の場合



- 付属のオーディオピンケーブルと市販の光デジタルケーブルを用意して図のように接続します。光デジタルケーブルの先端はそれぞれの機器に合ったものをご用意ください。MDW-1の光デジタル入力端子は角型、EIAJ 標準です。



リモコンキーの名称と使い方 (11~14)

① POWER (パワー) キー

電源をON/OFFするキーです。本体のPOWER/STANDBYキーと同じ機能です。

② MD EJECT (イジェクト) キー

MDを取り出すときに押します。本体のEJECTキーと同じ機能です。

③ INPUT MODE (インプットモード) キー

入力をデジタルかアナログが切り替えます。本体のDIGITAL/ANALOGキーと同じ機能です。

④ DISPLAY (ディスプレイ) キー

MD停止中にこのキーを押すとMDに録音されている曲の合計時間と録音可能な残り時間の表示を切り替えます。

⑤ 数字キー

再生する曲番をダイレクトに選ぶことができます。たとえば、3曲目を指定するときは<3>キーを押します。12曲目の場合は<+10>を一度押した後<1>、<2>の順に押します。

⑥ DELETE (デリート) キー

ディスク名や曲名(トラック名)を修正するキーです。このキーを押して1文字ずつ消去します。

⑦ AUTO MARK (オートマーク) キー

自動で曲番をつけるオートマーク機能のON/OFFをします。

⑧ 1<< 選曲(戻し) キー

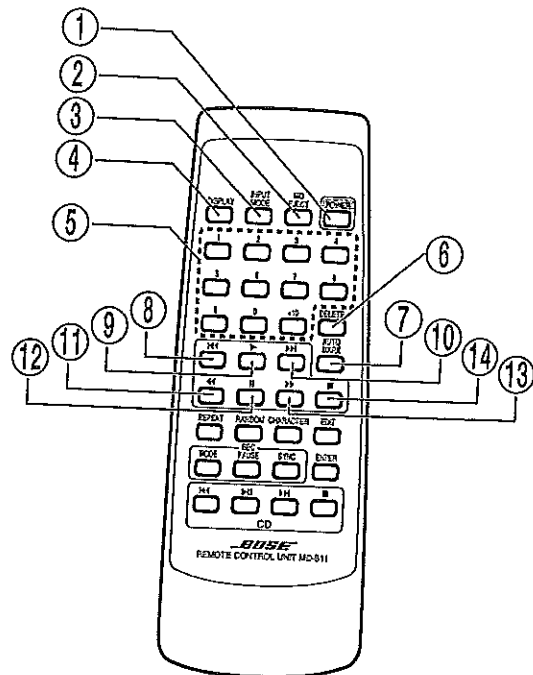
一曲ずつ曲(トラック)を戻すキーです。また、ディスク名やトラック名の修正中には文字を選ぶキーにもなります。

⑨ 1>> MD再生キー

MDの再生をするキーです。また、RECポーズ中にこのキーを押すと録音がスタートします。電源OFF時にこのキーを押すと、電源がONしてMDがセットしてあれば、そのまま再生を始めます。

⑩ 1>>> 選曲(送り) キー

一曲ずつ曲(トラック)を送るキーです。また、ディスク名やトラック名の修正中には文字を選ぶキーにもなります。



⑪ <<< 早戻しキー

MD再生時にこのキーを押すと、早戻しを行います。また、ディスク名やトラック名の修正中には文字を選ぶキーにもなります。

⑫ || MDポーズキー

MDの再生中、このキーを押すとポーズ(一時停止)することができます。再生のポーズ中やRECポーズ中に押すと、再生を始めたリ録音を始めたリすることができます。

⑬ >>> 早送りキー

MD再生時にこのキーを押すと、早送りをを行います。また、ディスク名やトラック名の修正中には文字を選ぶキーにもなります。

⑭ ■ MDストップキー

MDの再生や録音を停止するときに押します。MDの編集をやめるときにも使います。

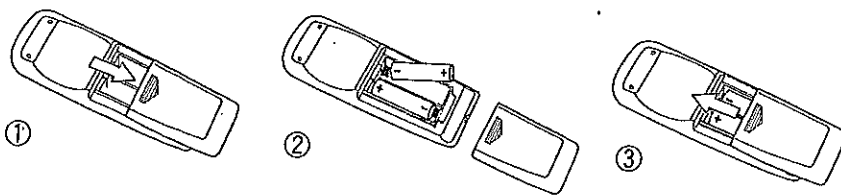
リモコンの使い方

◆ 電池の入れかた ◆

① リモコンを裏返しにして、図のように電池ホルダーを引き出します。

② 電池ケースに電池を入れます。内部の表示に従い電池の⊕⊖をまちがえないように気を付けてください。

③ 電池ホルダーをもとにもどします。



⚠ 注意

乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険があります。つぎの点についてご注意ください。(電池の注意事項もよく見てください。)

- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないで

ください。

- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1か月以上)使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液を良くふきとってから新しい電池を入れてください。

リモコンキーの名称と使い方 (15~26)

⑮ REPEAT (リピート) キー

このキーを押すと同じ曲を繰り返して聴くことができます。一度押すとMDの全曲を繰り返し、もう一度押すと1曲だけを繰り返し、さらにもう一度押すとリピートが解除されます。

⑯ RANDOM (ランダム) キー

MD停止中にこのキーを押してから再生すると、MDの曲を順不同(ランダム)に聴くことができます。

⑰ CHARACTER (キャラクター) キー

ディスク名やトラック名を修正中にこのキーを押すたびに、次のように文字の種類が変わります。
アルファベット大文字→小文字→数字、記号→カタカナ→アルファベット大文字→小文字→...

⑱ EDIT (エディット) キー

録音したMDの各種編集を行うときに、このキーを押します。

⑲ MODE (モード) キー

モノラル長時間録音と通常のステレオ録音のモードを切り替えるとき、このキーを押します。

⑳ PAUSE (RECポーズ) キー

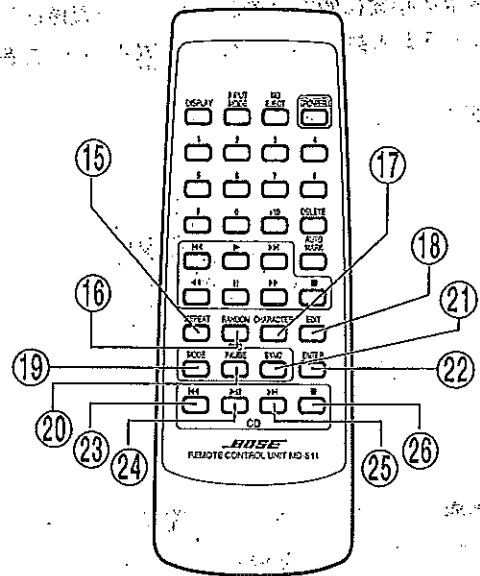
このキーを押すと、RECポーズ(録音待機)状態になります。このキーをもう一度押すと、録音がスタートします。

㉑ SYNC (シンクロ) キー

シンクロ録音スタート機能を使用するとき、このキーを押します。

㉒ ENTER (エンター) キー

MDの編集時、編集の内容を決定したり、選んだ文字を確定したりするときに使います。



以下の㉓㉔㉕㉖のキーは、PLS-1310、PLS-1210、SSS-1MCのCDの操作を行なうためのキーです。

㉓ ◀◀ CD選曲(戻し、早戻し) キー

演奏中の曲の頭に戻す、あるいは一曲前に戻します。また、押し続けて早戻しするキーです。ただし、PLS-1210は押し続けても早戻しはしません。

㉔ ▶▶ CD再生/ポーズキー

CDを再生/ポーズ(一時停止)をするキーです。また、シンクロ録音スタート待機時は、このキーでシンクロ録音がスタートします。

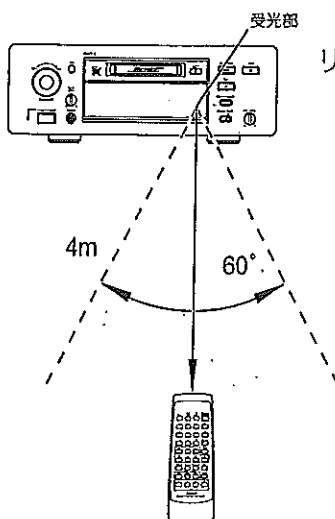
㉕ ▶▶▶ CD選曲(送り、早送り) キー

演奏中の次の曲の頭に進めます。また、押し続けて早送りするキーです。ただし、PLS-1210は押し続けても早送りはしません。

㉖ ■ CDストップキー

CDを停止させるキーです。

リモコンの動作範囲



リモコンは図の範囲内でご使用ください。

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたらリモコンの電池を交換してください。

⚠ 注意

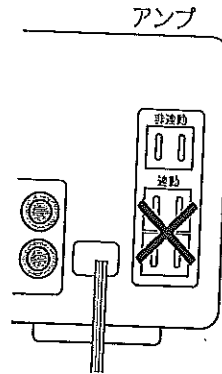
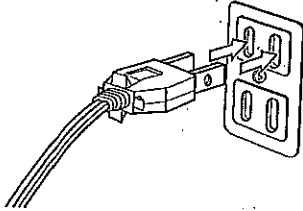
- リモコンとセンサー受光部との間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、誤動作することがあります。また逆に赤外線で作動する他の機器を使用時にこのリモコンを使用すると、その機器を誤動作させることがあります。
- 直射日光や、蛍光灯の強い光が直接センサー受光部に当たると、リモコンで操作できないことがあります。そのようなときは、本体の設置場所を変えたり、蛍光灯を離してください。

電源ON/OFFのしかた

※各機器の接続に間違いがないか、もう一度確認してください。

※電源を入れる前は、必ずアンプのVOLUME (主音量調整) つまみを反時計方向に回して音量を最小にしておいてください。

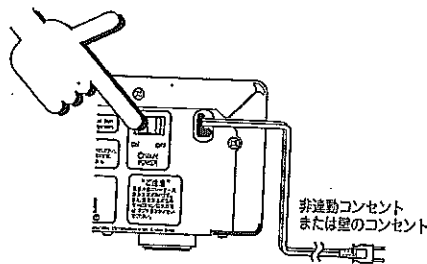
1. 電源プラグをコンセントに差し込みます。



⚠ 注意

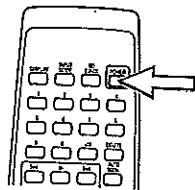
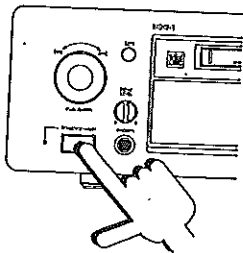
MDW-1の電源プラグは必ず壁のコンセントなど他の機器の電源に連動しないところへつないでください。

2. 本体裏側のMAIN POWER (主電源) スイッチがONになっていることを確認してください。ONになっていない場合はONにしてください。



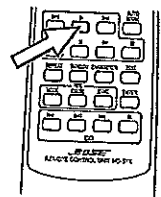
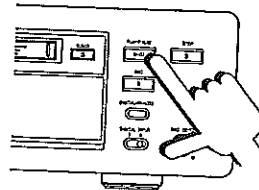
◆POWER/STANDBYキーで電源を入れる◆

POWER/STANDBY (電源) キーを1回押すと電源が入ります。このとき、キーのとなりのSTANDBYインジケータ (赤ランプ) が点灯し表示が点灯します。もう1回押すと電源が切れてスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケータが点灯します。



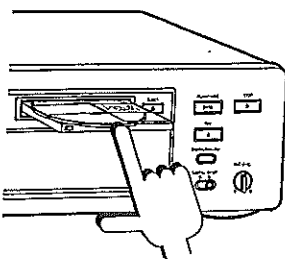
◆POWER/STANDBYキー以外で電源を入れる◆

本体のPLAY/PAUSE (再生/一時停止) キーまたはリモコンの▶ MD再生キーを押します。MDがセットしてある場合は、自動的に再生を開始します。また、MDが入っていない場合は“NO DISC”を表示します。



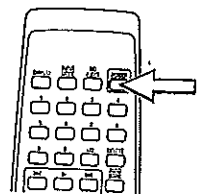
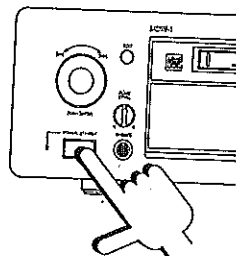
◆MDを本体に挿入して電源を入れる◆

本体にMDを挿入すると電源が入り文字表示部にそのMDのタイトル名を表示します。



◆電源をOFFする方法◆

電源がONしているときにPOWER/STANDBY (電源) キーを押すとスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケータが点灯します。



システム上の制約について

ミニディスク(MD)システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行なわれます。

そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 最大録音可能時間(60分、74分)に達していなくても“DISC FULL”が表示される。

MDシステムでは時間に関係なく、曲数がいっぱいになると“DISC FULL”の表示が出ます。255曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のディスクに分けて録音してください。

- 曲数も録音時間にも余裕があるのに“DISC FULL”が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行なわれると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく“DISC FULL”の表示が出ます。

- 短い曲を何曲消してもディスクの残り時間が増えない。

ディスクの残り時間を表示するとき、8秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

- つなぐことができない場合がある。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

- ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間(60分、74分)に一致しない場合がある。

通常1クラスタ(約2秒)が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため実際に使用できる時間は少なくなります。

また、ディスクに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

- 編集を行なった曲でサーチを行なうと、音が途切れることがある。

- 曲番が正確につかないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって短い曲ができる場合があります。

また、オートマーク機能で自動的にトラックマーキングを行った場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

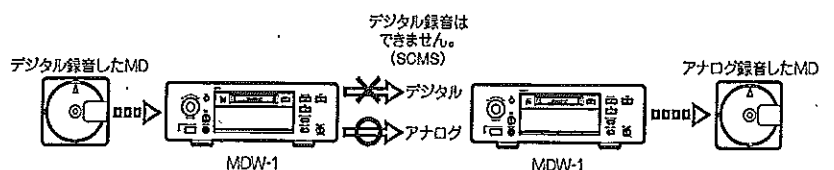
- “TOC Read”の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用ディスクを入れると、通常より“TOC Read”表示が長く表示されます。

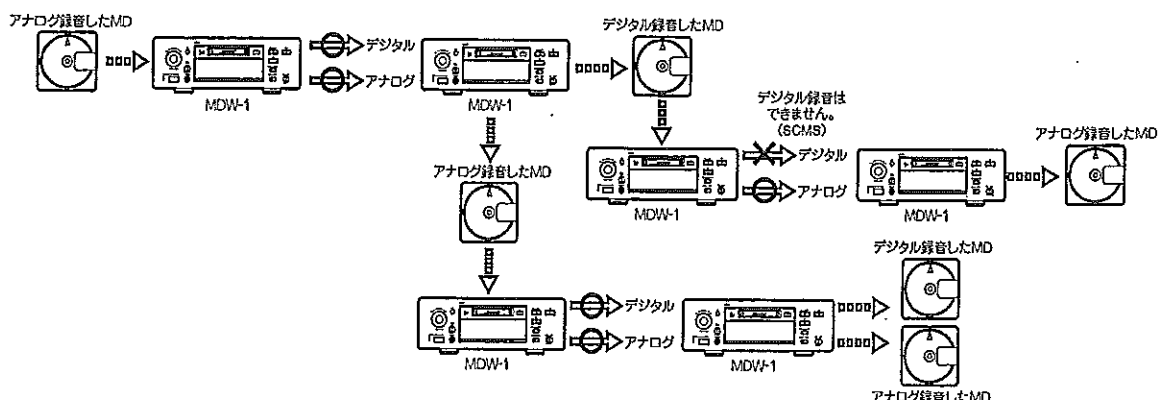
シリアルコピーマネージメントシステムについて

シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)は、著作権保護のため、各種のオーディオ機器間でデジタル録音ができるのは一世代だけに制限した規定です。

- ・CD(コンパクトディスク)、DAT(デジタルオーディオテープ)、MD(ミニディスク)ソフトからMDへデジタル録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDは、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



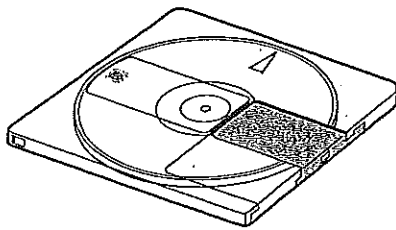
- ・アナログレコードやFM放送などを本機で録音したMDから他のMDへ、デジタル信号のまま録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDから、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



MD(ミニディスク)の取り扱いについて

◆MDについて◆

MD(ミニディスク)とは



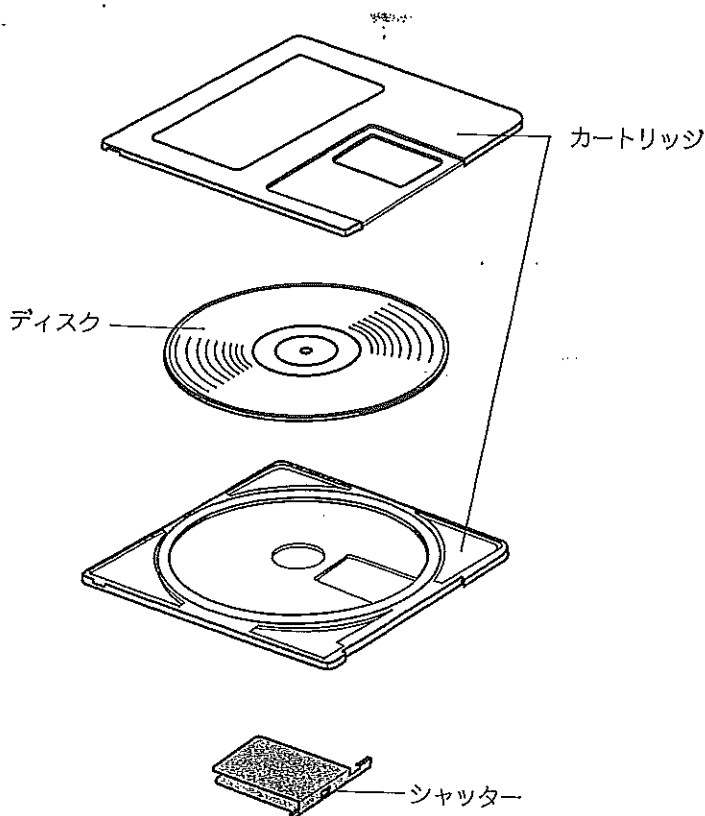
●小さいディスク

直径64mmのディスクを68×72×5mmの大きさのカートリッジに収めたもので、テープのように伸びたりからんだりする心配がなく、音質も劣化することなく耐久性に優れています。また、カートリッジに収められているので、ほこり、キズ、指紋などもつきにくく取り扱いの簡単なディスクです。

●デジタル録音、再生

MDは、録音、再生ともデジタル方式です。そのため、ノイズや歪みが極めて少なくコンパクトディスク(CD)に迫る高音質を実現しています。

●MDの構造



●MDの種類について

MDには再生専用と、録音・再生ができる2つのタイプがあります。

・再生専用MD

再生のみが可能で、市販の録音済みソフトはこのタイプです。

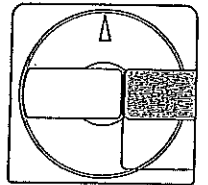
CDと同じ光ディスクで光学ピックアップで信号を読み取り、再生します。また、このMDには編集は一切できません。



・録音用MD

何度でも録音・再生ができる「生ディスク」です。

光磁気ディスクを使用しておりレーザー光と磁気で記録する磁界変調オーバーライト方式を採用しています。



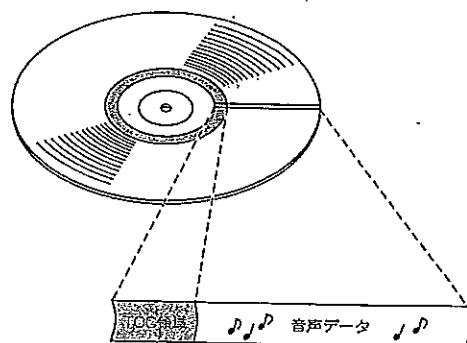
●ATRACについて

MDは、CDの約半分の直径でありながらCDとほぼ同じ長さの音楽を記録することができます。これは、新しく開発された聴覚心理学に基づく音声圧縮技術“ATRAC: Adaptive Transform Acoustic Coding (アダプティブトランスフォーム アコースティック コーディング)”によるものです。この技術によって聴覚上の音質が損なわれることがないように音楽データを1/5に圧縮することができます。

●素早い選曲(TOC)について

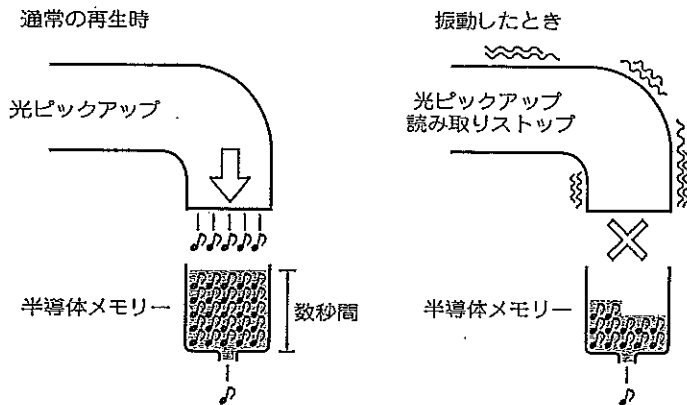
MDは、CDと同じように高速で目的の曲の頭出しができます。しかも、録音用のMDでは、頭出しのみならず録音した曲の編集も素早く行えます。

これは、曲の情報を“ユーザーTOC: Table Of Contents”と呼ばれる音楽データとは別の領域で管理しているからです。MDはこのTOCデータを書き換えるだけで、曲を消去したり、曲順を変更することができます。



●音とびガードメモリー

MDは、ディスクから読み取られたデータを一瞬に再生するのではなくいったん半導体メモリーに蓄えておく音とびガードメモリーを採用しています。このため、外部からの衝撃や振動で光学ピックアップからの読み取り信号が途切れても、半導体メモリーのデータがなくなる前に光学ピックアップからの読み取りが再開すれば音楽が途切れることなく再生することができます。

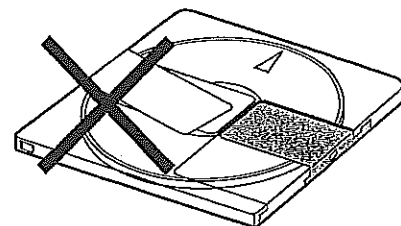
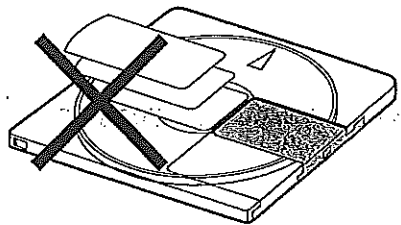
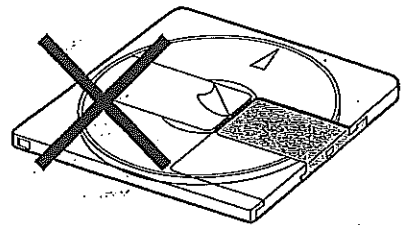


●MD保管上の注意

- ・ミニディスクを次のような場所に置くことはさけてください。
 - ・直射日光の当たる場所。
 - ・暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
 - ・車の中などの高温になる場所。
 - ・投光照明機などの発熱物の近くの場所。
 - ・極端に寒い場所。
 - ・湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
 - ・カートリッジの中に、砂やほこりの入りやすい場所。

●MDにラベルを貼るときの注意

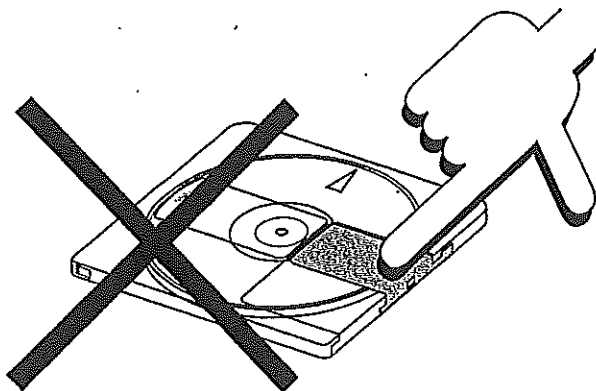
- ・ラベルは正しく貼り付けないと、ディスクが本体内部につまって取り出せなくなることがあります。



●MD取り扱いについて

ミニディスクは、カートリッジに収められていますので、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱うことができますが、カートリッジが汚れていたり、そっていたりすると誤動作を起こす場合があります。いつまでも美しい音を楽しむために次のことにご注意ください。

- ・MDに直接触らないでください。
シャッターを手で開けないでください。無理に開けるとこわれます。
- ・また、シャッターを開けてカートリッジ内のMDを直接触らないでください。
- ・定期的にカートリッジについたほこりやゴミを乾いた布でふき取ってください。



ボーズのCDアンプと組み合わせて使う

本機はボーズ製CDアンプPLS-1310、PLS-1210、SSS-1MCと組み合わせて使うことによって、シンクロ録音スタートなど、便利な機能を使うことができます。また、PLS-1310、PLS-1210とは、デザインの統一性をもたせていますので、よりベストマッチな組み合わせを実現します。

※PLS-1210に接続した外部の機器はPLS-1210の機能上録音することができません。

●MDの音をボーズのCDアンプから聴く

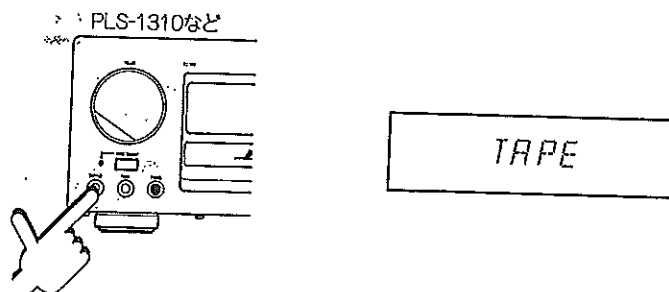
1. 機器の接続を確認します。

各機器の接続にまちがいがいないか8ページを参照して確認してください。

2. 本機とCDアンプの電源を入れます。

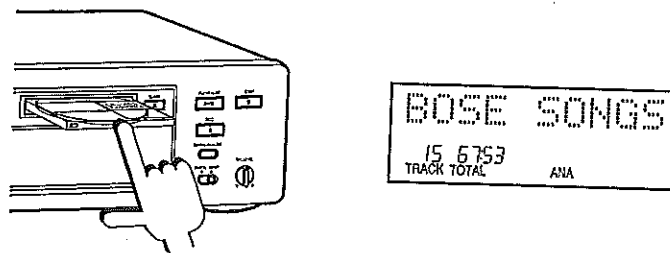
電源を入れるときは本機の電源を先に入れてからCDアンプの電源を入れるようにします。本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。

3. CDアンプのTAPE/AUXキーを押して“TAPE”にします。

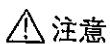


※PLS-1210の場合はSELECTORキーを押してLINE2を選びます。

4. 本機に再生したい曲の入っているMDを入れます。



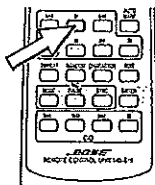
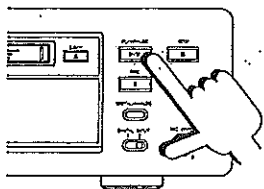
ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。



注意

MDを入れるとき、途中で引っかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

5. MDを再生します。

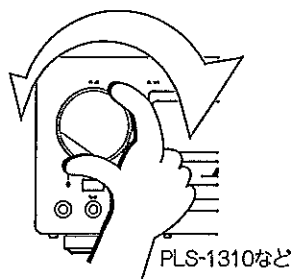


こんな方法も

ジョグダイヤルを回して曲を選んでも再生をはじめます。

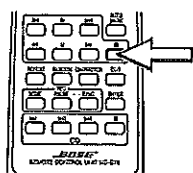
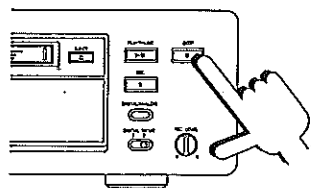
本体のPLAY/PAUSE ▶/II キーまたはリモコンの ▶ キーを押して再生をはじめます。

6. 音量を調節します。



CDアンプのVOLUME (主音量調整) つまみを回して音量を調節してください。

7. 再生をやめるには。



こんな方法も

POWER/STANDBYキーを押して電源を切っても停止します。

MDの再生をやめるときは、本体のSTOPキーまたはリモコンの ■ (MD用ストップ) キーを押してMDを停止させます。
本機のくわしい再生の方法は31～34ページをご覧ください。

●ボーズのCDアンプ(PLS-1310、PLS-1210、SSS-1MC)からの音声をアナログ録音する
CDを録音する場合とCD以外の音声を録音する場合があります。

- A)CDアンプのCDを録音する場合(シンクロ録音スタート).....19~21ページを参照してください。
B)PLS-1310、SSS-1MCのFM/AMラジオの番組やAUX(外部入力)からの音声を録音する場合...21~22ページを参照してください。

・共通操作

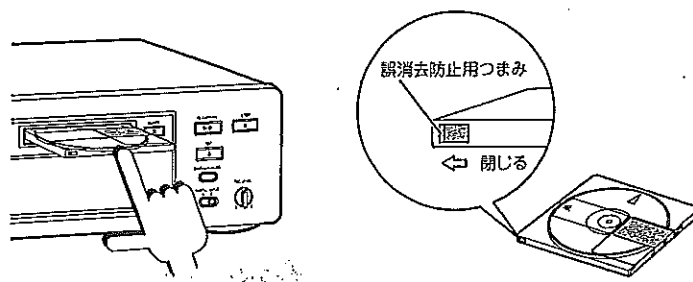
1.機器の接続を確認します。

各機器の接続にまちがいがいないか8ページを参照して確認してください。

2.本機とCDアンプの電源を入れます。

電源を入れるときは本機の電源を先に入れてからCDアンプの電源を入れるようにします。本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。

3.本機に録音するためのMDを入れます。



ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。このときMDに録音するための空き^{*}があることと、誤消去防止用の孔が開いていることを必ず確認してください。

※録音可能な残り時間を知る場合は、34ページ「時間表示の切り替えのしかた」を参照してください。

△ 注意 MDを入れるとき、途中で引っかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

4.アナログ入力に切り替えます。

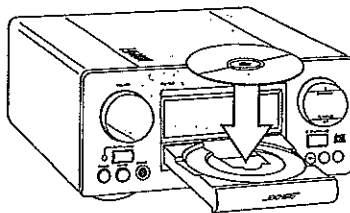


本体のDIGITAL/ANALOGキーまたはリモコンのINPUT MODEキーを押して入力をアナログにします。このとき表示部に“ANALOG INPUT”の文字が流れ表示部下部に“ANA”が点灯します。

A) CDアンプのCDを録音する場合 (シンクロ録音スタート)

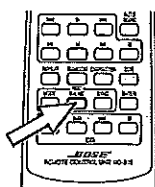
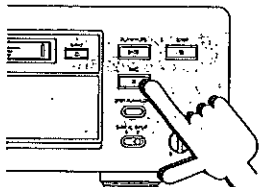
1. 18ページ共通操作1~4を行います。

2. CDアンプに録音したい曲の入ったCDをセットします。



PLS-1310など

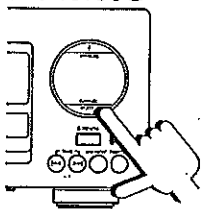
3. 本体のRECキーまたはリモコンのPAUSE (RECポーズ) キーを押してRECポーズ (録音待機) 状態にします。



表示部に“ANALOG INPUT”の文字が流れRECポーズになります。

4. 録音したい曲を再生します。

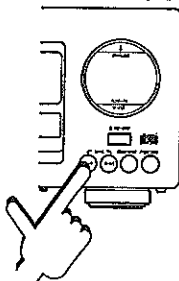
PLS-1310など



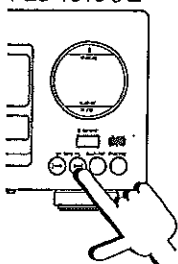
CDアンプのPLAY/PAUSEキーを押してCDの再生をはじめます。

5. 録音したい曲の中で音量が最大な所をさがします。

PLS-1310など

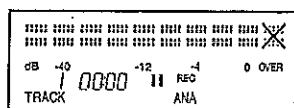
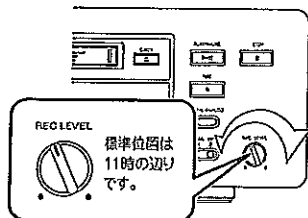


PLS-1310など



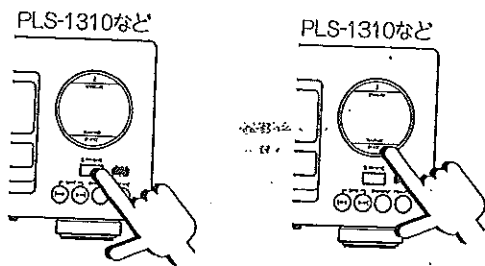
CDアンプのCDを再生しながら、早送り、早戻し機能を使って、録音したい曲の中で音量が大きくなる所をさがします。

6. 録音レベルを調整します。



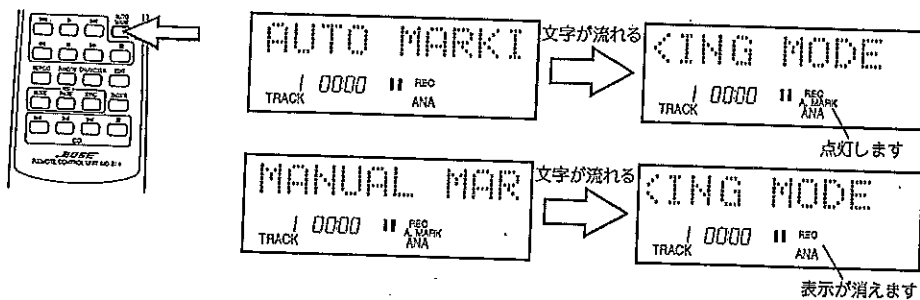
本体のREC LEVELつまみで表示部のレベルメーターを見ながら録音レベルを調整します。つまみは時計方向に回すとレベルが大きくなり、反対方向に回すとレベルが小さくなります。つまみの標準位置は図のように「11時」の位置です。録音するときのレベルはレベルメーターのOVERの位置が点灯しないようにします。

7. 録音したいCDの準備をします。



CDを頭から(最初から)録音する場合はCDアンプのSTOP/MONO (ストップ/モノ)キーを押して停止させます。また、CDの中の特定の曲や、曲の途中から録音したい場合は、その曲の頭または録音したい部分のところでポーズ(一時停止)状態にしておきます。

8. 曲番をつける方法を選びます。



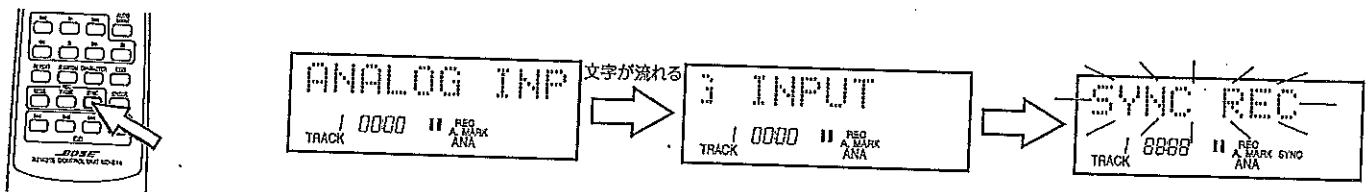
気をつけて
この機能はリモコンを使わないとできません。

曲と曲との間の無音部分^{※1}を感知して曲番をつける「AUTO MARK(オートマーク)」機能[※]を使うか使わないかをリモコンのAUTO MARKキーを押して選びます。オートマークを選ぶと表示部に「AUTO MARKING MODE」と文字が流れ「A.MARK」が点灯します。オートマークを選ばないと表示部に「MANUAL MARKING MODE」と文字が流れ「A.MARK」の表示が消えます。

※オートマークについては33ページを参照してください。

注1. アナログ録音の場合1.5秒以上の無音部分があると曲番がひとつ増えます。

9. シンクロ録音スタートの準備をします。

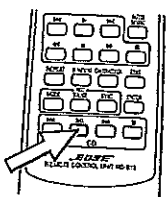


リモコンのSYNC[※]キーを押します。表示部に「ANALOG INPUT」の文字が流れ、次に「SYNC REC」の文字が点滅をはじめます。

気をつけて
この機能はリモコンを使わないとできません。

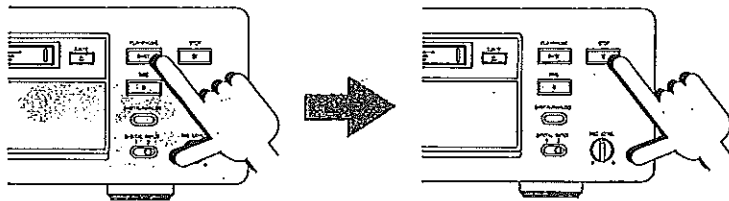
※このキーを押してから約30秒以内に録音を開始しないとシンクロ録音スタートのモードが解除されます。作業途中で解除された場合はもう一度 SYNC キーを押してシンクロ録音スタートモードにしてください。

10. 録音を開始します。



リモコンの▶|| キーを押すと自動的にCDアンプのCDの再生と本機MDの録音がスタートします。

11. 録音したい曲が終わったら。



録音したい曲、CDが終了したら本体のPLAY/PAUSE ▶/⏸ キーもしくはリモコンの▶/⏸ キーを押して一時停止させます。次に本体のSTOPキーあるいはリモコンの■ (MD用ストップ) キーを押します。表示部に“UTOC wrigt”と文字が流れTOC*をMDに書き込み録音を終了します。

*TOC (トック/ Table Of Contents/ テーブルオブコンテンツ) については14ページを参照してください。

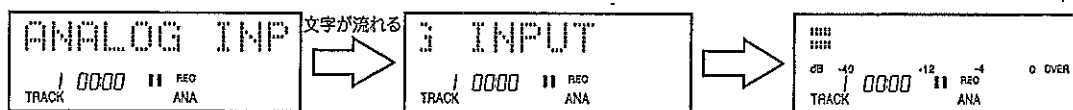
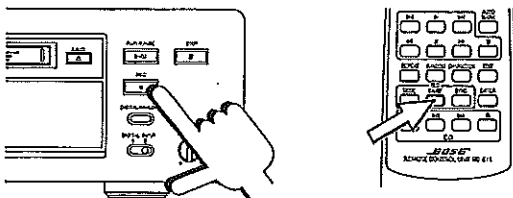
⚠ 注意 UTOC (ユーザートック) を書き込んでいる時に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しくUTOCが書き込まれないと、MDへの録音が完了しないばかりではなくMDが再生できなくなる恐れがあります。

B) PLS-1310、SSS-1MCのFM/AMラジオの番組やAUX (外部入力) からの音声を録音する場合

1. 18ページ共通操作1~4を行います。

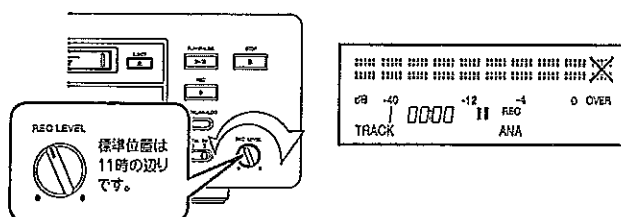
2. PLS-1310、SSS-1MCを録音したい音源 (FM/AM/AUX) に切り替えて音を出します。

3. 本体のRECキーまたはリモコンのPAUSE (RECポーズ) キーを押してRECポーズ (録音待機) 状態にします。



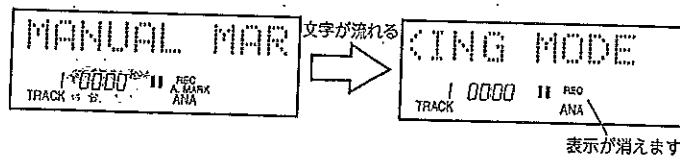
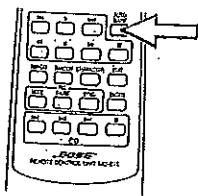
表示部に“ANALOG INPUT”の文字が流れRECポーズになります。

4. 録音レベルを調整します。



本機のREC LEVELつまみで表示部のレベルメーターを見ながら録音レベルを調整します。つまみは時計方向に回すとレベルが大きくなり、反対方向に回すとレベルが小さくなります。つまみの標準位置は図のように「11時」の位置です。録音するときのレベルはレベルメーターのOVERの位置が点灯しないようにします。

5. 曲番を記録する方法を「マニュアルマーク」[※]に切り替えます。



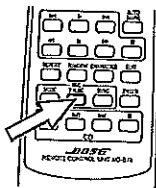
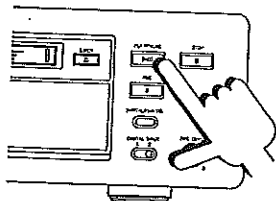
気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

リモコンのAUTO MARKキーを押して表示部の“A.MARK”を消します。このとき表示部に“MANUAL MARKING MODE”と文字が流れます。

※ラジオなどの音声の場合正しく曲番をつけるのが難しいため、1曲として録音して後から編集することをおすすめします。

6. 録音を開始します。

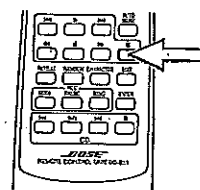
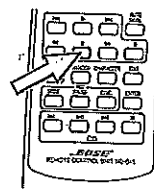
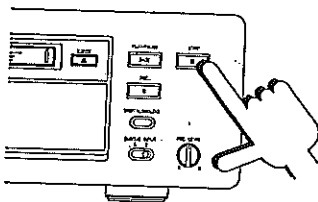
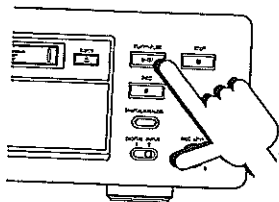


こんな方法も

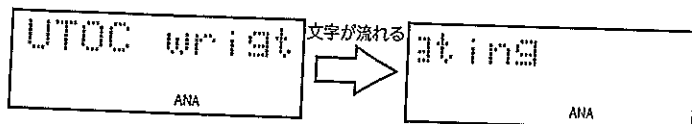
本体のRECキーを再び押して録音を開始することもできます。

録音をはじめたい所で、本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーもしくはリモコンのPAUSE (RECポーズ) キーを押します。

7. 録音したい曲や、番組が終わったら。

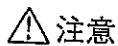


本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーもしくはリモコンの || キーを押して一時停止させます。次に本体のSTOPキーあるいはリモコンの ■ (MD用ストップ) キーを押します。



表示部に“UTOC writing”と文字が流れTOC[※]をMDに書き込み録音を終了します。

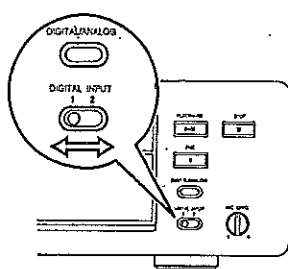
※TOC (トラック/Table Of Contents/テーブルオブコンテンツ) については14ページを参照してください。



注意 UTOC(ユーザートラック)を書き込んでいる時に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しくUTOCが書き込まれないと、MDへの録音が完了しないばかりではなくMDが再生できなくなる恐れがあります。

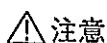
●PLS-1310、SSS-1MCからCDをデジタル録音する (CD以外はデジタル録音できません)

1. 機器の接続とデジタル入力切替スイッチを確認します。



各機器の接続にまちがいが無いが8ページを参照して確認してください。また、デジタル録音するために、本機とPLS-1310または、SSS-1MCを市販の光デジタルケーブルを使用して接続します。録音したい機器と接続されているデジタル入力端子側にデジタル入力切替スイッチを合わせます。

※光デジタルケーブルは角型、EIAJ 標準のものをご注意ください。

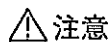
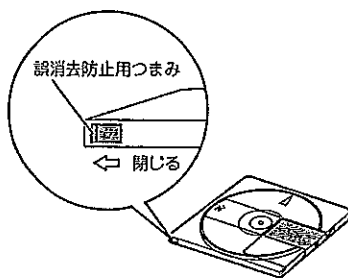
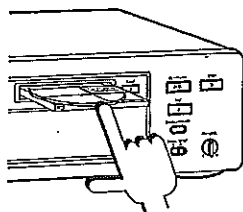


注意 デジタル入力端子切替スイッチの操作は録音中に行なわないでください。音切れや、曲順のまちがえなどが起きる原因になります。

2. PLS-1310、SSS-1MCと本機の電源を入れます。

電源を入れるときは本機の電源を先に入れてからPLS-1310、SSS-1MCの電源を入れるようにします。本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。

3. 本機に録音するためのMDを入れます。

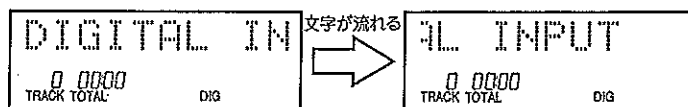
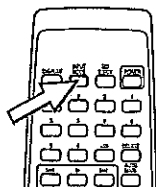
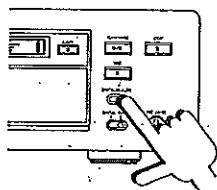


注意 MDを入れるとき、途中で引っかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。このときMDに録音するための空き^{*}があることと、誤消去防止用の孔が閉じていることを必ず確認してください。

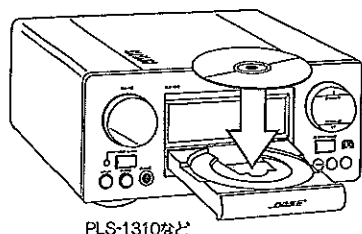
※録音可能な残り時間を知る場合は、34ページ「時間表示の切り替えのしかた」を参照してください。

4. デジタル入力端子を選んでデジタル入力に切り替えます。



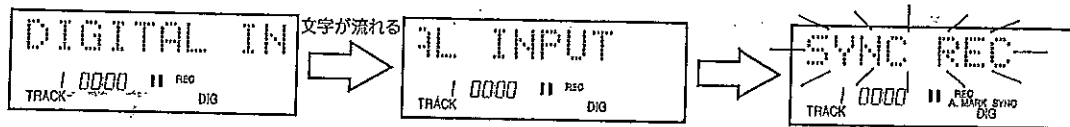
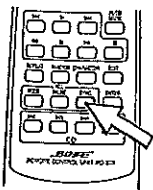
本体のDIGITAL/ANALOGキーまたはリモコンのINPUT MODEキーを押して入力をデジタルにします。このとき表示部に“DIGITAL INPUT”の文字が流れ表示部下部に“DIG”が点灯します。

5. PLS-1310、SSS-1MCに録音したい曲の入ったCDをセットします。



PLS-1310、SSS-1MCに録音したい曲の入ったCDをセットします。CDを頭から録音する場合は停止のままにしておきます。CDの中の特定の曲や曲の途中から録音したい場合はその曲の頭または録音をはじめたい部分でポーズ(一時停止)にしておきます。

6. シンクロ録音スタートの準備をします。



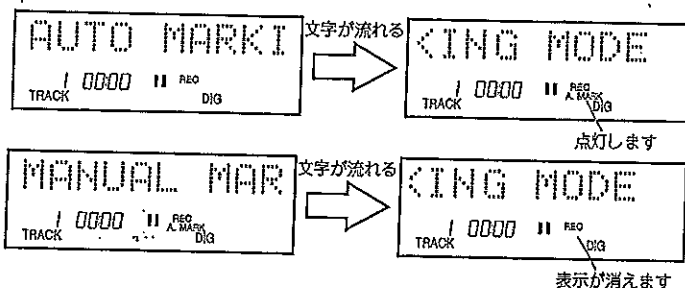
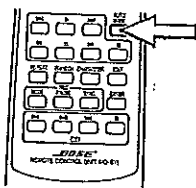
リモコンのSYNC^{*}キーを押します。表示部に“DIGITAL INPUT”の文字が流れ、次に“SYNC REC”の文字が点滅をはじめます。

※このキーを押してから約30秒以内に録音を開始しないとシンクロ録音スタートのモードが解除されます。
作業途中で解除された場合はもう一度 SYNC キーを押してシンクロ録音スタートモードにしてください。

気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

7. 曲番をつける方法を選びます。



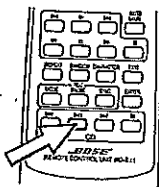
気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

CDと同じように曲番をつける「AUTO MARK (オートマーク)」機能^{*}を使うか使わないかをリモコンのAUTO MARKキーを押して選びます。オートマークを選ぶと表示部に“AUTO MARKING MODE”と文字が流れ“A.MARK”が点灯します。オートマークを選ばないと表示部に“MANUAL MARKING MODE”と文字が流れ“A.MARK”の表示が消えます。

※オートマークについては33ページを参照してください。

8. 録音を開始します。

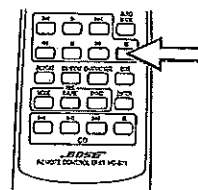
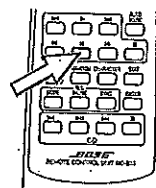
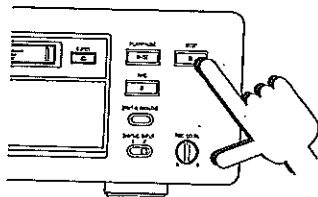
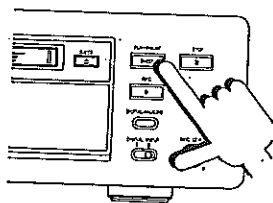


リモコンの▶|| キーを押すと自動的にPLS-1310、SSS-1MCのCDの再生と本機MDの録音がスタートします。

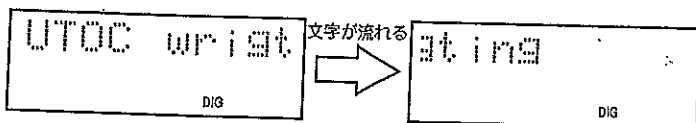
気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

9. 録音したい曲が終わったら。



録音したい曲、CDが終了したら本体のPLAY/PAUSE ▶|| キーもしくはリモコンの|| キーを押して一時停止させます。次に本体のSTOPキーあるいはリモコンの■ (MD用ストップ) キーを押します。



表示部に“UTOC wrigting”と文字が流れTOC^{*}をMDに書き込み録音を終了します。

※TOC (トック/Table Of Contents/テーブルオブコンテンツ) については14ページを参照してください。



注意

UTOC (ユーザートック) を書き込んでいる時に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しくUTOCが書き込まれないと、MDへの録音が完了しないばかりではなくMDが再生できなくなる恐れがあります。

ボーズのCDアンプ以外のオーディオコンポと組み合わせて使う

●MDの音をオーディオコンポから聴く

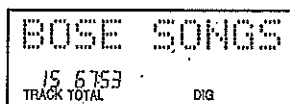
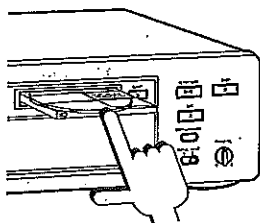
1. 機器の接続を確認します。

各機器の接続にまちがいがいいが9ページを参照して確認してください。

2. 本機とオーディオコンポの電源を入れます。

本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。オーディオコンポなどの外部の機器の取扱いはそれぞれの取扱説明書等を参照してください。

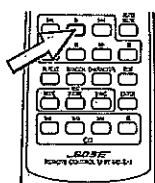
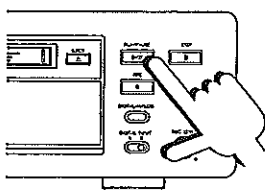
3. 再生専用MDまたは録音済のMDを入れます。



注意
MDを入れるとき、途中で引っかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。

4. MDの再生をします。



本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーまたはリモコンの ▶ キーを押して再生をはじめます。

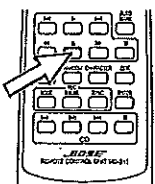
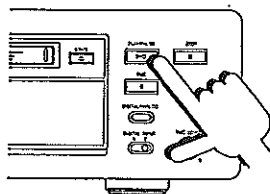
こんな方法も

ジョグダイヤルのつまみを回して曲を選んでも再生がはじまります。

5. オーディオコンポから音を出します。

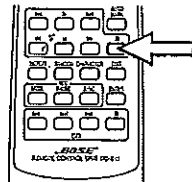
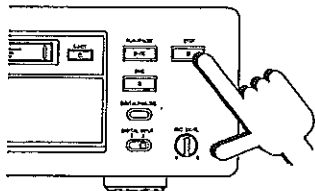
オーディオコンポのアンプを操作して音を出します。

6. 再生中に演奏をポーズ(一時停止)するには。



本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーを押すとポーズ(一時停止)状態になります。ポーズ(一時停止)を解除するにはリモコンの || キーまたは ▶ キーあるいは本体の PLAY/PAUSE ▶/|| キーを押します。

7. 再生を停止するには。

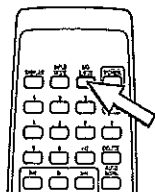
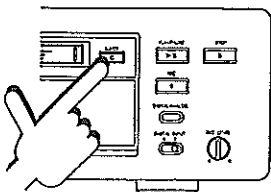


本体のSTOPキーまたはリモコンの ■ (MD用ストップ) キーを押します。

こんな方法も

EJECTキーやPOWER/STANDBYキーを押してもMDの再生をやめることができます。

8. MDを取り出すには。



本体のEJECTキーまたはリモコンのMD EJECTキーを押します。

こんな方法も

電源がスタンバイ状態でもEJECTできます。

●アナログ録音をする場合

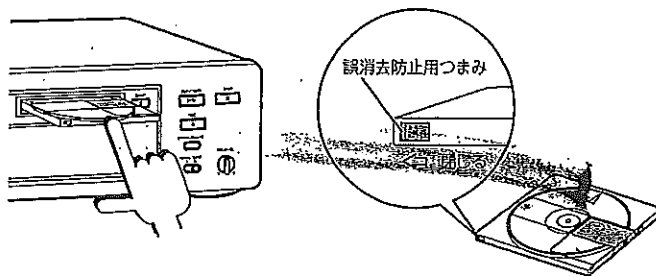
1. 機器の接続を確認します。

各機器の接続にまちがいが無いが9ページを参照して確認してください。デジタル録音をしない場合は光デジタルケーブルは必要ありません。

2. 本機とオーディオコンボの電源を入れます。

本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。オーディオコンボなどの外部の機器の取り扱いはその取扱説明書等を参照してください。

3. 本機に録音するためのMDを入れます。

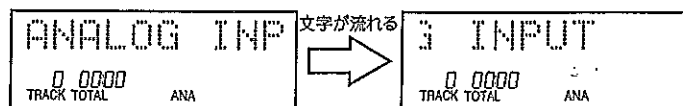
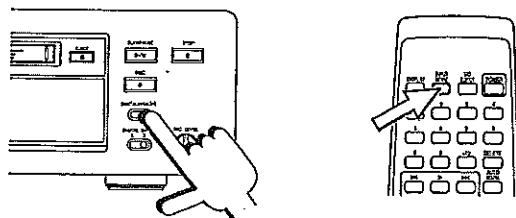


ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。このときMDに録音するための空き※があることと、誤消去防止用の孔が閉じていることを必ず確認してください。

※録音可能な残り時間を知る場合は、34ページ「時間表示の切り替えのしかた」を参照してください。

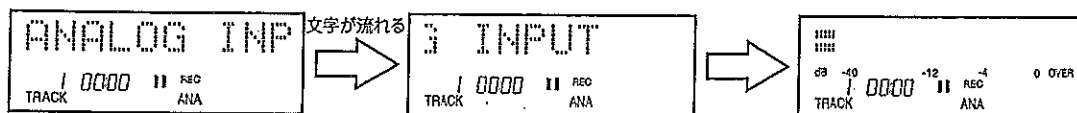
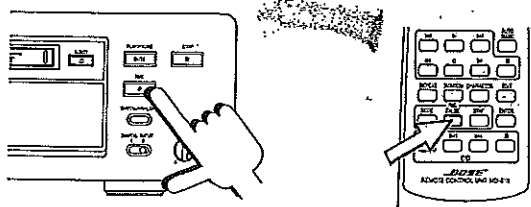
⚠ 注意 MDを入れるとき、途中で引がかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

4. アナログ入力に切り替えます。



本体のDIGITAL/ANALOGキーまたはリモコンのINPUT MODEキーを押して入力をアナログにします。このとき表示部に“ANALOG INPUT”の文字が流れ表示部下部に“ANA”が点灯します。

5. 本体のRECキーまたはリモコンのPAUSE (RECポーズ) キーを押してRECポーズ(録音待機)状態にします。

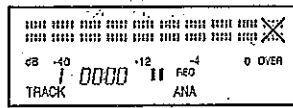
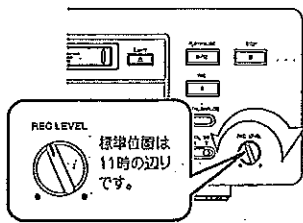


表示部に“ANALOG INPUT”の文字が流れRECポーズになります。

6. 外部の機器から録音したい曲の音声信号を再生します。

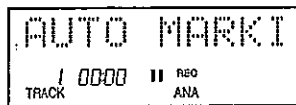
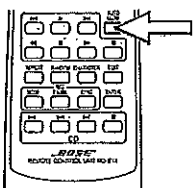
外部の機器 (CD プレーヤー、カセットデッキ、チューナーなど) から録音したい音を出します。

7. 録音レベルを調整します。

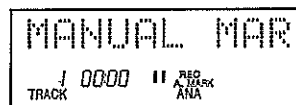


本体のREC LEVELのまみで表示部のレベルメーターを見ながら録音レベルを調整します。つまみは時計方向に回すとレベルが大きくなり、反時計方向に回すとレベルが小さくなります。つまみの標準の位置は図のように「11時」の位置です。録音するときのレベルは、レベルメーターのOVERの位置が点灯しないようにします。

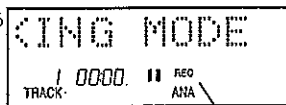
8. 曲番をつける方法を選びます。



文字が流れる



文字が流れる



気をつけて

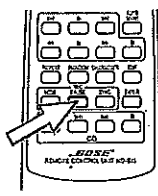
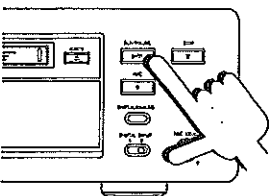
この機能はリモコンを使わないとできません。

曲と曲との間の無音部分^{※1}を感知して曲番をつける「AUTO MARK (オートマーク)」機能[※]を使うか使わないかをリモコンのAUTO MARKキーを押して選びます。オートマークを選ぶと表示部に「AUTO MARKING MODE」と文字が流れ「A.MARK」が点灯します。オートマークを選ばないと表示部に「MANUAL MARKING MODE」と文字が流れ「A.MARK」の表示が消えます。

※オートマークについては33ページを参照してください。

注1. アナログ録音の場合1.5秒以上の無音部分があると曲番がひとつ増えます。

9. 録音を開始します。

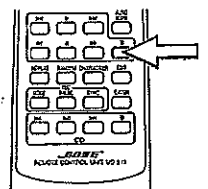
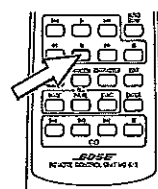
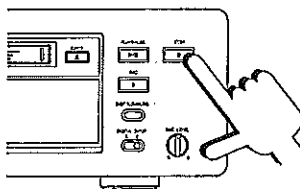
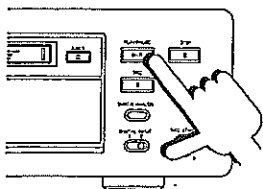


こんな方法も

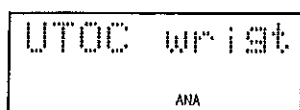
本体のRECキーを再び押して録音を開始することもできます。

本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーまたはリモコンのREC PAUSEキーを押して録音を開始してから、外部の機器からの再生を再開します。

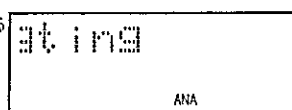
10. 録音したい曲が終わったら。



録音したい曲、CDが終了したら本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーもしくはリモコンの|| キーを押して一時停止させます。次に本体のSTOPキーあるいはリモコンの■ (MD用ストップ) キーを押します。

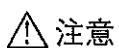


文字が流れる



表示部に「UTOC wrigting」と文字が流れTOC[※]をMDに書き込み録音を終了します。

※TOC (トック/Table Of Contents/テーブルオブコンテンツ) については14ページを参照してください。



注意 UTOC (ユーザートック) を書き込んでいる時に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しくUTOCが書き込まれないと、MDへの録音が完了しないばかりではなくMDが再生できなくなる恐れがあります。

●デジタル録音をする場合

本機はデジタルのソース(音声信号)をデジタルのまま録音するためにそれぞれのソースのサンプリング周波数をMDの標準サンプリング周波数の44.1kHzに変換するサンプリングコンバーターを装備しています。本機の対応しているサンプリング周波数^{*}は32kHz、44.1kHz、48kHz、です。

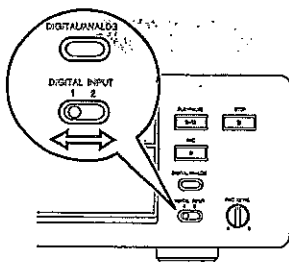
※サンプリング周波数について

CS-BS Aモード.....32kHz
CD、MD^{*}.....44.1kHz
CS-BS Bモード、DAT48kHz

こんな使い方

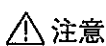
本機をサンプリングコンバーターとして使用したいとき、サンプリング周波数を変換(コンバート)したい光デジタル信号を本機の光デジタル入力端子に接続し、録音可能なMDをセットして、RECポーズ状態にすると、光デジタル出力端子からサンプリング周波数44.1kHzの信号が出力されます。

1.機器の接続とデジタル入力切替スイッチを確認します。



各機器の接続にまちがいが無いが9ページを参照して確認してください。また、デジタル録音をするために、本機のDIGITAL I/O(OPTICAL)INPUT(光デジタル入力端子)とオーディオコンポの光デジタル出力端子を市販の光デジタルケーブル^{*}を使って接続してあることを確認してください。録音したい機器と接続されているデジタル入力端子側にデジタル入力切替スイッチを合わせます。

※本機のデジタル入力端子は角型、EIAJ 標準です。ケーブルの形状が合っているものをご用意ください。

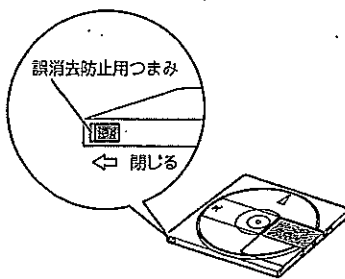
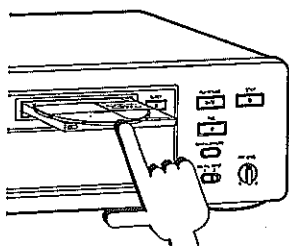


注意 デジタル入力端子切替スイッチの操作は録音中におこなわないでください。音切れや、曲順のまちがえなどが起きる原因になります。

2.本機とオーディオ機器の電源を入れます。

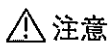
本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。オーディオコンポなどの外部の機器の取り扱いはその取扱説明書等を参照してください。

3.本機に録音するためのMDを入れます。



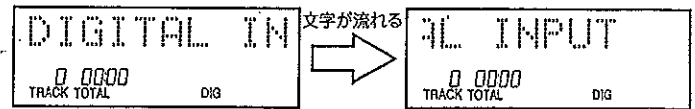
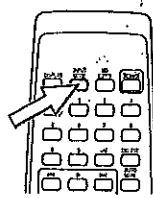
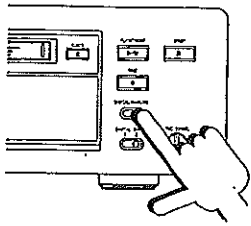
ディスク上面の矢印の向きにしたがって挿入口に差し込みます。MDを入れるときはカートリッジの中央部を押して、本体に水平にまっすぐ入れてください。挿入口に入れて軽く押すと、ディスクは自動的に引き込まれ、TOC(14ページ参照)を読み込んだ後、表示部にディスク名、曲数、総演奏時間を表示します。このときMDに録音するための空き^{*}があることと、誤消去防止用の孔が閉じていることを必ず確認してください。

※録音可能な残り時間を知る場合は、34ページ「時間表示の切り替えのしかた」を参照してください。



注意 MDを入れるとき、途中で引っかかるなどして入りにくい時は無理に入れないでください。故障の原因になります。そのような場合は一度MDを取り出して入れなおしてください。

4. デジタル入力に切り替えます。

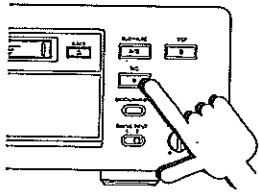


本体のDIGITAL/ANALOGキーまたはリモコンのINPUT MODEキーを押して入力をデジタルにします。このとき表示部に“DIGITAL INPUT”の文字が流れ表示部下部に“DIG”が点灯します。

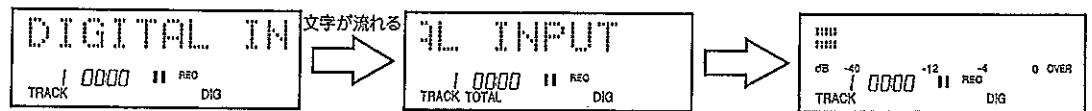
5. 外部の機器からの音声信号を再生します。

外部の機器から録音したい音声信号(CD、DAT、BS、CSチューナー)を再生します。

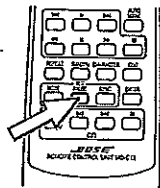
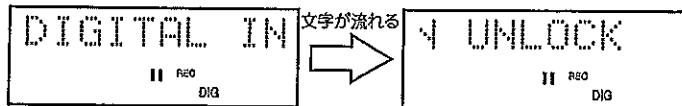
6. 本体のRECキーまたは、リモコンのPAUSE(RECポーズ)キーを押してRECポーズ(録音待機)状態にします。



○ 正しくデジタル信号が入力されている場合

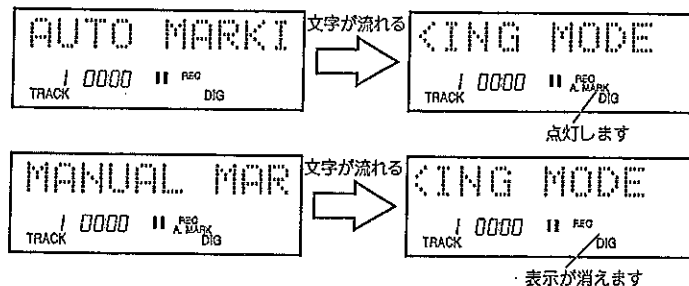
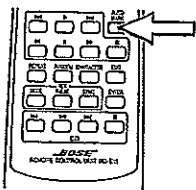


× 正しくデジタル信号が入力されていない場合



表示部に“DIGITAL INPUT”の文字が流れ、正しくデジタル信号が入力されていればレベルメーター表示に変わりRECポーズになります。光デジタル入力端子から信号が入っていない場合は“DIGITAL IN UNLOCK”の文字が流れます。光デジタルケーブルの接続と外部の機器の状態を確認してください。

7. 曲番を付ける方法を選びます。



気をつけて

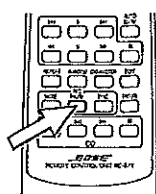
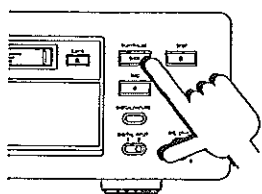
この機能はリモコンを使わないとできません。

・CDからのデジタル録音の場合はCDと同じように曲番をつける「AUTO MARK (オートマーク)」機能^{*}を使うか使わないかをリモコンのAUTO MARKキーを押して選びます。オートマークを選ぶと表示部に“AUTO MARKING MODE”と文字が流れ“A.MARK”が点灯します。オートマークを選ばないと表示部に“MANUAL MARKING MODE”と文字が流れ“A.MARK”の表示が消えます。

・CD以外のデジタル音声信号を録音する場合はオートマークを選ばないで1曲として録音し、後から編集することをおすすめします。

^{*}オートマークについては33ページを参照してください。

8. 録音を開始します。

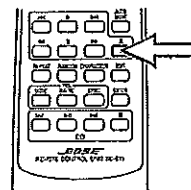
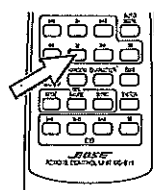
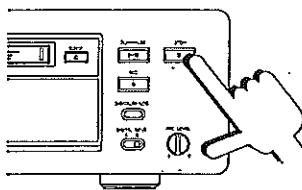
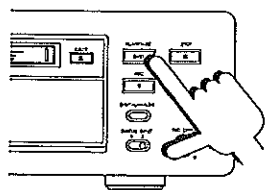


こんな方法も

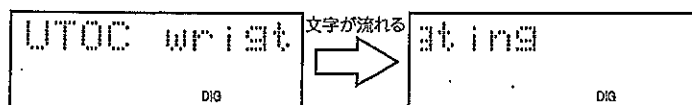
本体のRECキーを再び押して録音を開始することもできます。

本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーまたはリモコンのREC PAUSEキーを押して録音を開始してから、外部の機器からの再生を再開します。

9. 録音したい曲が終わったら。

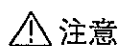


録音したい曲、あるいは番組が終了したら本体のPLAY/PAUSE ▶/|| キーもしくはリモコンの|| キーを押して一時停止させます。次に本体のSTOPキーあるいはリモコンの■ (MD用ストップ) キーを押します。



表示部に“UTOC writing”と文字が流れTOC※をMDに書き込み録音を終了します。

※TOC (トック/Table Of Contents/テーブルオブコンテンツ) については14ページを参照してください。



注意

UTOC (ユーザートック) を書き込んでいる時に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しくUTOCが書き込まれないと、MDへの録音が完了しないばかりではなくMDが再生できなくなる恐れがあります。

聴きたい曲を選ぶには(リモコンでダイレクト選曲)

リモコンの数字キーを使って、聴きたい曲を直接選びます。

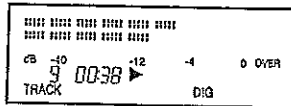
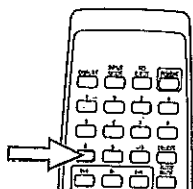
演奏中、停止中にかかわらず、曲を選ぶとすぐにその曲から再生します。

気をつけて

数字キーはリモコンにしかありません。リモコンを使用しないとダイレクト選曲はできません。

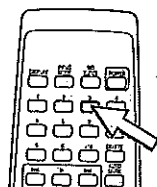
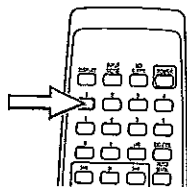
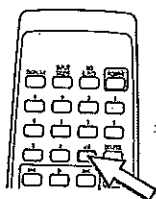
たとえば15曲収録されているMDの

●9曲目を再生したいとき

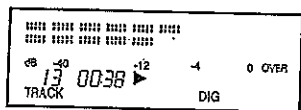


リモコンの数字キーの<9>を1回押します。停止中に押すと9曲目が自動的に再生されます。ポーズ(一時停止)中に押すと9曲目の頭の部分でポーズ状態になります。ポーズを解除するにはリモコンのIIキーまたは▶キーあるいは本体のPLAY/PAUSE▶/IIキーを押します。

●13曲目を再生したいとき

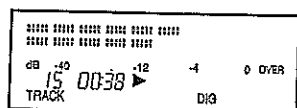
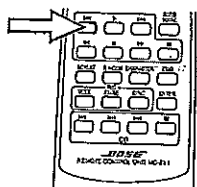


1. リモコンの数字キーの<+10>を押します。
2. <1>、<3>の順に押します。



停止中に押すと13曲目が自動的に再生されます。ポーズ(一時停止)中に押すと13曲目の頭の部分でポーズ状態になります。ポーズを解除するにはリモコンのIIキーまたは▶キーあるいは本体のPLAY/PAUSE▶/IIキーを押します。

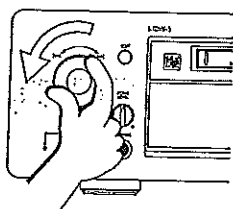
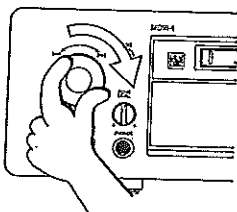
●MDの最後の曲を選ぶには



MDを入れて、リモコンのII<<<キーを1回押します。MDの最後の曲を自動的に再生します。

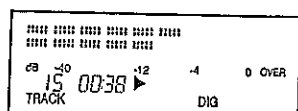
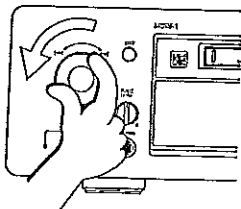
聴きたい曲を選ぶには(ジョグダイヤルを使って選曲)

●聴きたい曲を選ぶには



ジョグダイヤルを時計方向へ回すと次の曲に進み自動的に再生を始めます。反時計方向に回すと前の曲に戻り自動的に再生を始めます。ポーズ(一時停止)中にジョグダイヤルを回すと選んだ曲の頭でポーズ状態になります。ポーズを解除するにはリモコンのIIキーまたは▶キーあるいは本体のPLAY/PAUSE▶/IIキーを押します。

●MDの最後の曲を選ぶには



MDを入れてジョグダイヤルを反時計方向へ回します。MDの最後の曲を自動的に再生します。

聴きたい所をさがすには (サーチ)

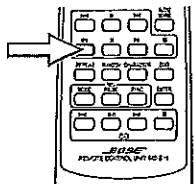
ポーズ(一時停止)中、あるいは再生中にリモコンの ◀◀ 早戻しキーあるいは ▶▶ 早送りキーを使って聴きたい所をさがすことができます。

※ ◀◀ キーあるいは ▶▶ キーを15秒以上押し続けると高速サーチになります。

気をつけて

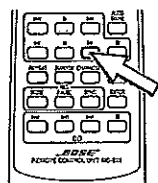
この機能はリモコンを使わないとできません。

●早戻しをするには



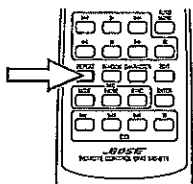
リモコンの ◀◀ キーを押しつけます。聴きたい所にきたらキーを押すのをやめます。

●早送りをするには



リモコンの ▶▶ キーを押しつけます。聴きたい所にきたらキーを押すのをやめます。

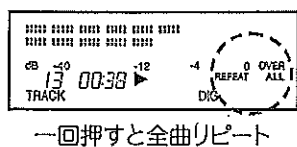
繰り返し再生するには (リピート)



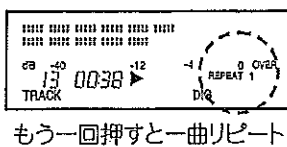
リモコンのREPEATキーを押すと同じ曲、あるいは全曲を繰り返し聴くことができます。

気をつけて

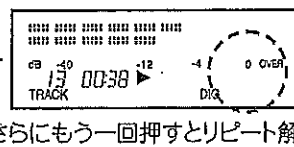
この機能はリモコンを使わないとできません。



一回押すと全曲リピート



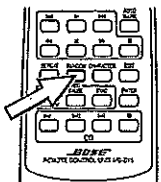
もう一回押すと一曲リピート



さらにもう一回押すとリピート解除

リピートの設定は本体にMDがセットされていれば停止中、ポーズ(一時停止)中、再生中いつでもできます。また、リピート再生している途中でリピートする曲を変えることができます。

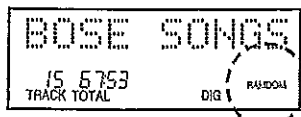
ランダム (曲順不同) 再生のしかた



MD停止中にリモコンのRANDOMキーを押して再生すると、MDの曲順をランダムに再生することができます。

気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。



このキーを押して、表示中に“RANDOM”と点灯させてMDを再生させると、曲順をランダムに再生させることができます。解除する場合は、MDを一度停止させてリモコンのRANDOMキーを押して表示部の“RANDOM”を消してください。

AUTO MARK (オートマーク)について

MDに曲順を付けると、再生時に頭出しをするとき便利になります。再生時の頭出しのための曲順を付けるには、オートマークとマニュアルマークの2通りの方法があります。

※オートマークの操作のしかたは20、22、24、27、29ページを参照してください。

●オートマークについて

本機のオートマーク機能には

・アナログ録音の場合

録音する音声の無音部分(約1.5秒以上)を自動的に感知して曲順を付けます。

・CDからのデジタル録音時は、CDの曲順を自動的に記録します。

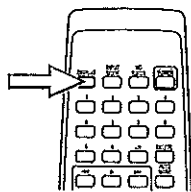
気をつけて

- アナログ録音の場合は、曲の無音部分を感知して曲番を付けます。そのため次のような場合、正確な位置に曲番が付かないことがあります。
 - ・拍手などで、曲の間に無音部分がない場合。
 - ・曲の間の雑音が大きい場合。
 - ・クラシック音楽などで曲の途中で音が非常に小さくなる場合。
- CDプレーヤーからのデジタル録音の場合は、無音部分の長さに関係なく、もとの曲番が付きます。ただし、次のような場合もありますのでご注意ください。
 - ・再生側CDの曲番と、録音されたMDの曲番が同じにならない場合があります。
 - ・録音時に再生側CDをプログラム再生、あるいは手動で選曲しながら再生した場合は、曲番が正しく付かない場合があります。

●オートマークOFF (マニュアルマーク) の場合

録音する音声は、デジタルとアナログにかかわらず全て1曲として録音します。ただし、一度MDの録音を停止させると、次に録音を始めたところから、次の曲順が付きます。また、1曲として録音したものを自分の好きなところで曲順を付けたい場合、MD編集機能の曲を2つに分けるDIVIDE(ディバイト)機能を使用することで、曲順を付けることもできます。ディバイト機能については、38、40ページを参照してください。

時間表示の切り替えのしかた

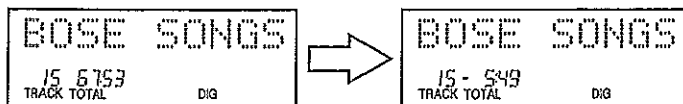


リモコンのDISPLAYキーを使います。

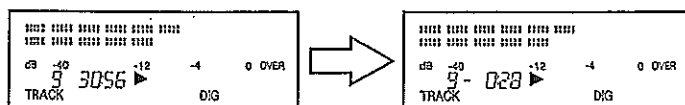
気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

停止中



再生中



- ・停止中にこのキーを押すと、MDに録音されている曲の合計時間と録音可能な残り時間の表示を切り替えます。
- ・ポーズ(一時停止)中と再生中にこのキーを押すと、その曲の曲名(登録していなければ“ No Name”)を表示すると同時に、その曲の経過時間と残り時間の表示を切り替えます。

モノラル長時間録音と再生について

本機はモノラル長時間録音に対応しています。

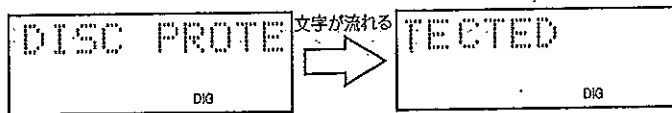
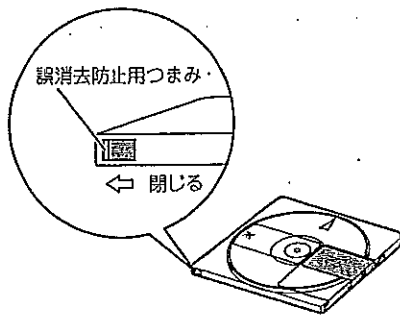
- ・モノラル長時間録音を行う場合は、リモコンのMODEキーを押して録音のモードを“MONO”に切り替えてください。“MONO”に切り替えてからの録音のしかたは、ステレオの場合と同じです。18～24、26～30ページを参照してください。
- ・再生は自動的に切り替えます。

※モノラル長時間録音した曲とステレオ録音した曲どうしの“COMBINE”編集はできません。

気をつけて

この機能はリモコンを使わないとできません。

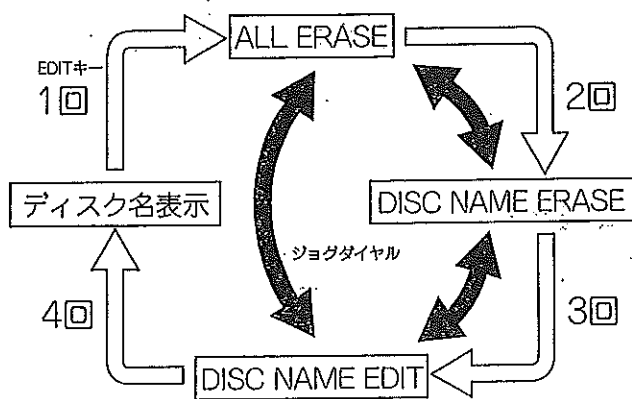
録音したMDの編集について



MDに録音した曲を編集する場合は、編集したいMDの誤消去防止用の孔が閉じていることを確認してください。誤消去防止用の孔が開いたままのMDを編集しようとすると、表示部に“DISC PROTECTED”の文字が流れます。この表示が出たときは、一度MDを取り出し、誤消去防止用の孔を閉じてからやり直してください。

●停止中に行なう編集機能

※本機のEDITキーを押すたびに次のように編集内容が変わります。行なおうと思っている機能が出るまでキーを押してください。



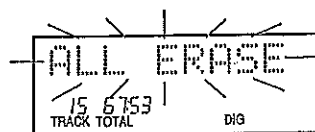
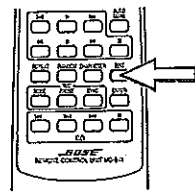
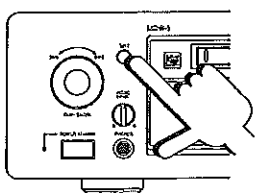
MDが停止しているときには3種類の編集ができます。本機のEDITキーを押して選びます。

1. ディスクの内容を全て消す (ALL ERASE/オールイレース)
2. ディスク名を消す (DISC NAME ERASE/ディスクネームイレース)
3. ディスク名を書き込んだり修正する (DISC NAME EDIT/ディスクネームエディット)

1. ディスクの内容を全て消す (ALL ERASE)

※一度にディスク中の全曲(内容)を消すことができます。いったん消すと元に戻すことができません。内容を確認してから実行してください。

1. 編集機能の“ALL ERASE”を選びます。

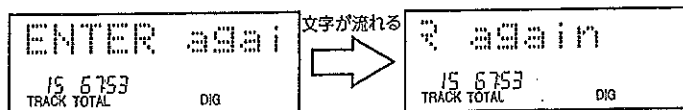
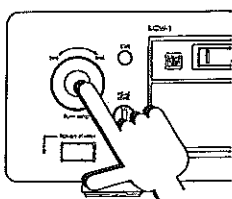


こんな方法も

本機のEDITキーを押したあとジョグダイヤルを回しても選べます。

MD停止中に本機のEDITキーを1回押して表示部に“ALL ERASE”を点滅させます。

2. ジョグダイヤルの中央部を1回押します。

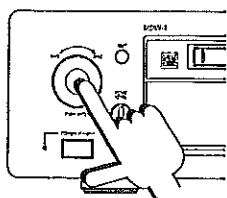


途中でやめるには

本機のSTOPキーを押します。

表示部に“ENTER again”の文字が流れます。

3.ジョグダイヤルの中央部をもう1回押します。



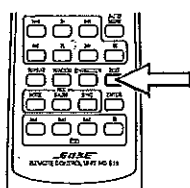
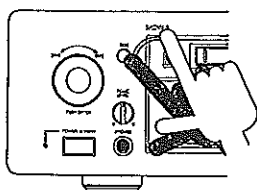
COMPLETE

“COMPLETE”の表示が出てディスクの内容全てが消されます。

2. ディスク名を消す (DISC NAME ERASE)

※一度にディスク名を消すことができます。消去すると元に戻すことができません。

1.編集機能の“DISC NAME ERASE”を選びます。



DISC NAME
15 6753
TRACK TOTAL DIG

文字が流れる

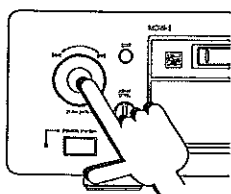
DISC NAME ERASE
15 6753
TRACK TOTAL DIG

MD停止中に本機のEDITキーをゆっくり2回押して表示部に“DISC NAME ERASE”の文字を流します。

こんな方法も

本機のEDITキーを押したあとジョグダイヤルを回しても選べます。

2.ジョグダイヤルの中央部を1回押します。



DISC NAME
15 6753
TRACK TOTAL DIG

文字が流れる

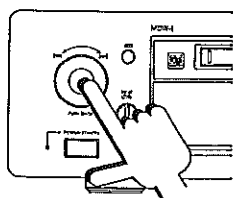
ENTER AGAIN
15 6753
TRACK TOTAL DIG

途中でやめるには

本機のSTOPキーをゆっくり2回押します。

表示部に“DISC NAME ERASE ENTER AGAIN”の文字が流れます。

3.ジョグダイヤルの中央部をもう1回押します。



COMPLETE

No NAME
15 6753
TRACK TOTAL DIG

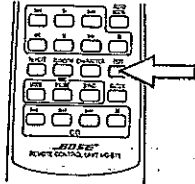
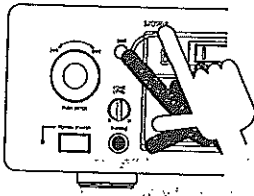
表示部に“COMPLETE”が表示が出て“NO NAME”の表示になりディスク名が消されます。

③.ディスク名を書き込んだり修正する (DISC NAME EDIT)

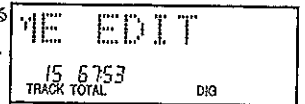
気をつけて

内容を消去したMDや買って来たばかりのMDには、ディスク名を書き込むことができません。一度録音をすると、書き込めるようになります。

1.編集機能の"DISC NAME EDIT"を選びます。



文字が流れる

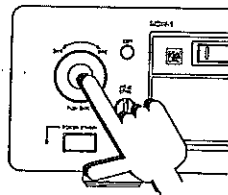


停止中に本機のEDITキーをゆっくり3回押して表示部に"DISC NAME EDIT"の文字を流します。

こんな方法も

本機のEDITキーを押したあとジョグダイヤルを回しても選べます。

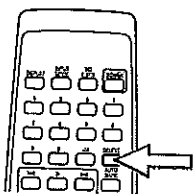
2.ジョグダイヤルの中央部を1回押します。



3.文字を入力します。

ジョグダイヤルを回して最初の文字を表示部に出します。ジョグダイヤルで出る文字は以下の通りです。また、書き込める文字数は64文字までです。書き込みたい文字が出たらジョグダイヤルの中央部を1回押します。

アルファベット大文字	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
アルファベット小文字	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
数字・記号	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? [\] ^ _ ` { } ~
カタカナ	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ シ ス セ ソ タ チ ツ テ ト ナ ニ ノ ネ ノ ハ ヒ フ ヘ ホ マ ミ ム メ モ ヤ ヨ ヲ ム

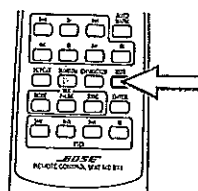
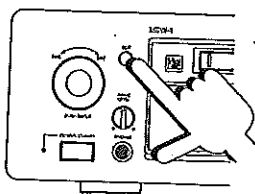


文字入力をまちがえたときはリモコンのDELETEキーを使ってまちがえた文字を消します。このキーを押すと最後の文字から1文字ずつ消すことができます。また、リモコンの◀、▶キーを使って修正したい文字を直接選ぶこともできます。

途中でやめるには

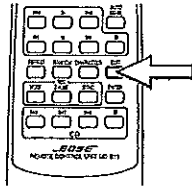
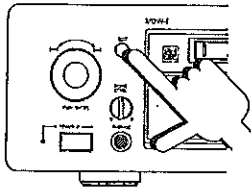
本機のSTOPキーをゆっくり2回押します。

4.入力が終わったら。



本機のEDITキーを押します。表示部に"COMPLETE"の文字が出てから今書き込んだディスク名が表示されて編集を終了します。

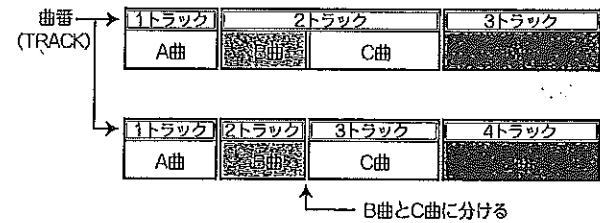
●再生中に行なう編集機能



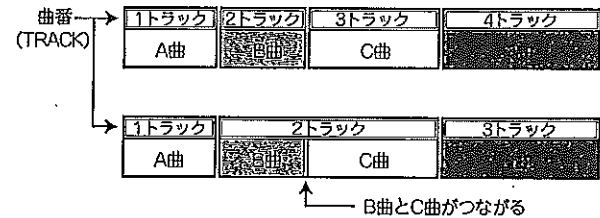
MDを再生しているときは5種類の編集ができます。本機のEDITキーを押して選びます。

1. 曲名を書き込んだり修正する (TRACK NAME EDIT/トラックネームエディット)

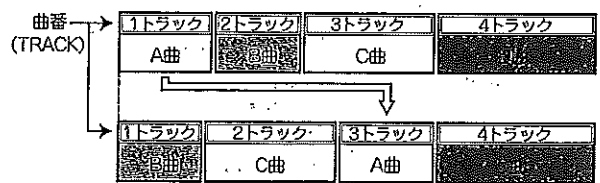
2. 曲を2つに分ける (DIVIDE/ディバイド)



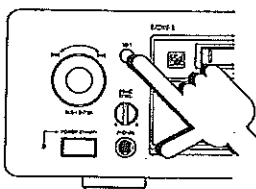
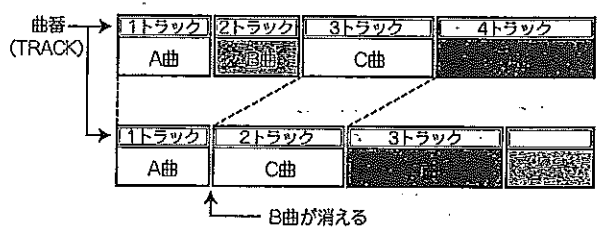
3. 前後の曲をつなげて1曲にする (COMBINE/コンバイン)



4. 曲順を移動する (MOVE/ムーブ)

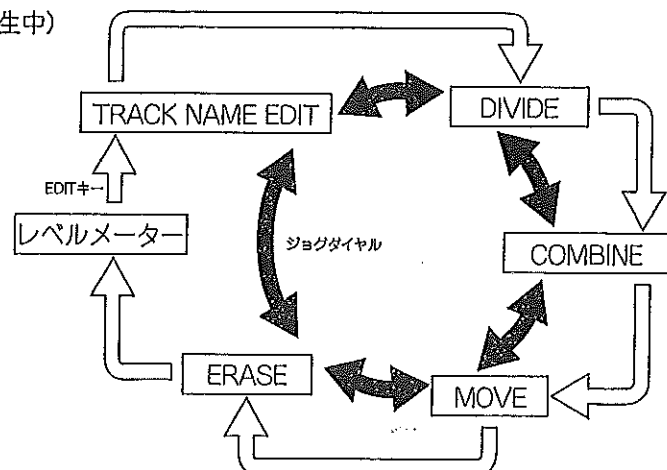


5. 1曲だけを消す (ERASE/イレース)



MDの再生中に本機のEDITキーを押すたびに次のように編集内容が変わります。行ないたい機能が出るまでキーを押してください(編集の内容はジョグダイヤルを回しても選ぶことができます)。

(再生中)

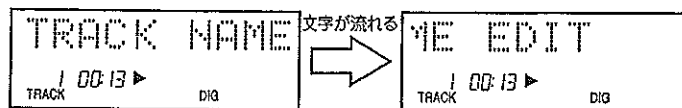
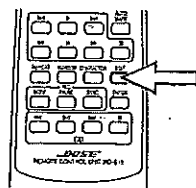
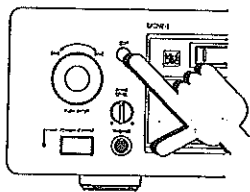


1. 曲名を書き込んだり修正する(TRACK NAME EDIT)

1. 曲名を書き込みたいあるいは、修正したい曲を再生します。[※]

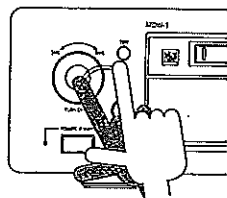
※曲の選び方は31ページを参照してください。

2. 編集機能の“TRACK NAME EDIT”を選びます。

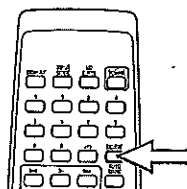
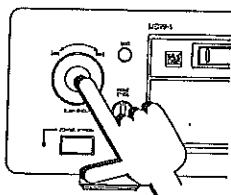


その曲の再生中、あるいはポーズ(一時停止)状態で本機のEDITキーを1回押して表示部に“TRACK NAME EDIT”の文字を流します。

3. ジョグダイヤルの中央部をゆっくり2回押します。



4. 文字を入力します。

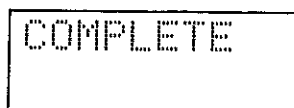
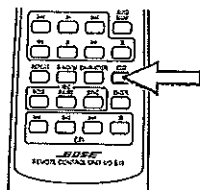
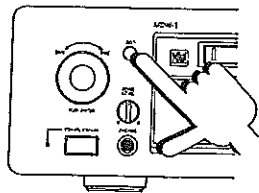


途中でやめるには

本機のSTOPキーをゆっくり2回押します。

ジョグダイヤルを回して最初の文字を表示部に出します。ジョグダイヤルで出る文字は37ページを参照してください。書き込める文字数は64文字です。文字が出たらジョグダイヤルの中央部を1回押します。文字入力をまちがえたときはリモコンのDELETEキーを使ってまちがえた文字を消します。このキーを押すと最後の文字から1文字ずつ消すことができます。また、リモコンの◀◀、▶▶キーを使って修正したい文字を直接選ぶこともできます。

5. 入力が終わったら。

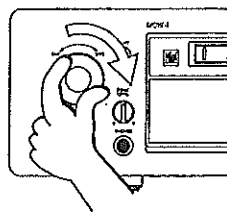


本機のEDITキーを1回押します。表示部に“COMPLETE”の文字が出てから今書き込んだ曲名が表示されて、編集を終了します。

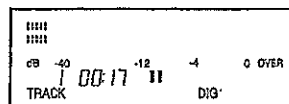
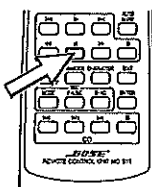
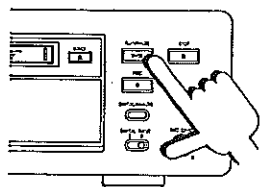
②. 曲を2つに分ける(DIVIDE)

録音後に1曲を2つに分け、新たに曲番を記録します。

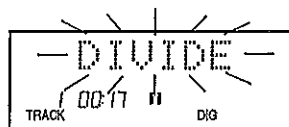
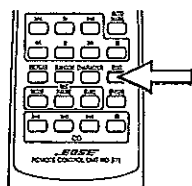
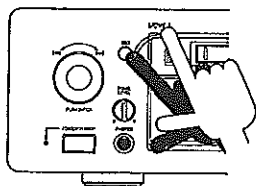
1. ジョグダイヤルを回して2つに分けたい曲を再生します。



2. 分けたい所で本体のPLAY/PAUSE▶/||キーまたはリモコンの||キーを押してポーズ(一時停止)状態にします。

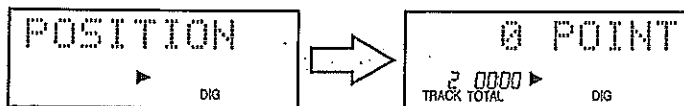


3. 編集機能の“DIVIDE”を選びます。



表示部に“DIVIDE”が点滅するまで数回本機のEDITキーを押します。

4. 曲を分ける点の確認をします。



ジョグダイヤルの中央部を2回押します。このとき表示部に“POSITION”が表示されます。そして表示部が“0 POINT”の表示になり、分ける点から3秒間再生をくり返します。

5. 分ける点の微調整を行います。

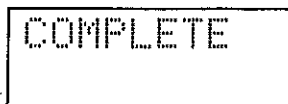
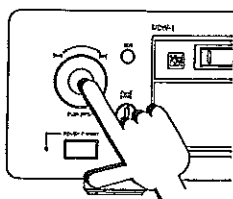
くり返し再生される音を聴きながら、分ける点の微調整をジョグダイヤルを回して行ないます。調整できる範囲はその一曲の中だけで最大-128から128ポイント[※]です。

※1ポイントは約0.006秒です。

途中でやめるには

本機のSTOPキーをゆっくり3回押します。

6. 編集を終了します。

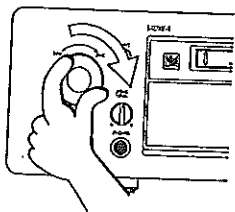


分ける点を正しく再生しているのを確認してジョグダイヤルの中央部を1回押します。表示部に“COMPLETE”の文字が出て編集を終了します。

③.前後の曲をつなげて1曲にする(COMBINE)

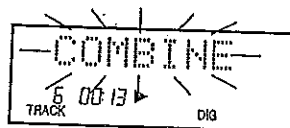
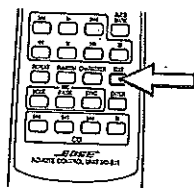
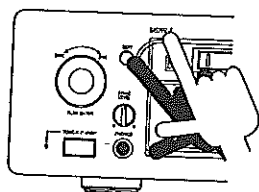
連続した2つの曲をつなげて1曲にします。

1.つなげたい曲を選びます。



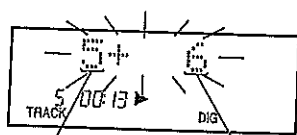
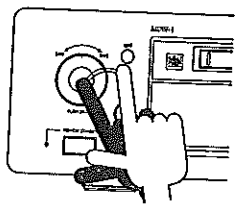
ジョグダイヤルを回してつなぎたい曲を再生します(1つ前の曲とつなげます)。

2.編集機能の"COMBINE"を選びます。



表示部に"COMBINE"が点滅するまで数回本機のEDITキーを押します。

3.正しく曲がつながっているかを確認します。



1つ前の曲

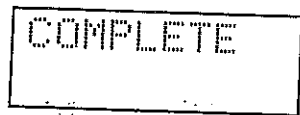
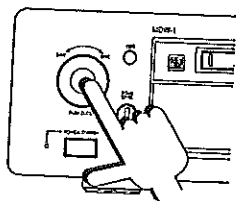
1で選んだ曲

途中でやめるには

本機のSTOPキーをゆっくり3回押します。

ジョグダイヤルの中央部を2回押します。このとき2つの曲がつづけて再生されます。

4.編集を終了します。

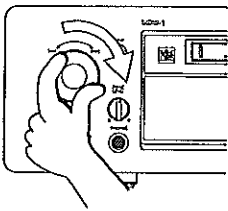


ジョグダイヤルの中央部を1回押します。表示部に"COMPLETE"の文字が出て編集を終了します。

4. 曲順を移動する(MOVE)

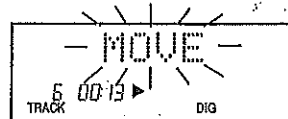
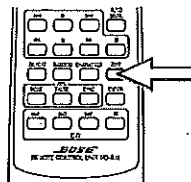
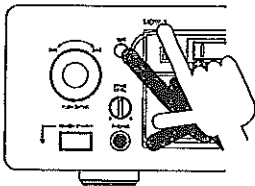
曲を好きな位置に移動して曲順を変えます。

1. 曲順を移動したい曲を選びます。



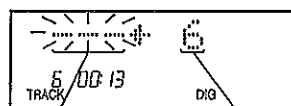
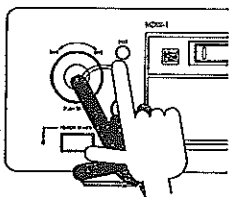
ジョグダイヤルを回して移動したい曲を再生します(一時停止にしてもできます)。

2. 編集機能の“MOVE”を選びます。



表示部に“MOVE”が点滅するまで数回本機のEDITキーを押します。

3. ジョグダイヤルの中央部を2回押します。

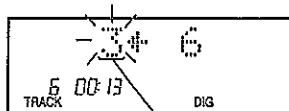
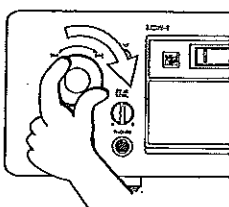


点滅します

1で選んだ曲番

表示部が点滅します。

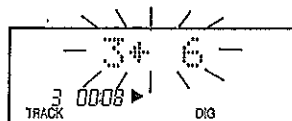
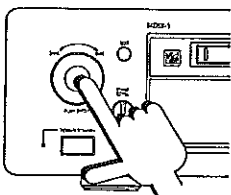
4. 曲番を選びます。



移動先の曲番

ジョグダイヤルを回して移動先の曲番を選びます。

5. 移動先を決定します。

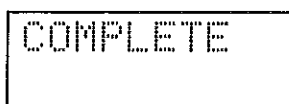
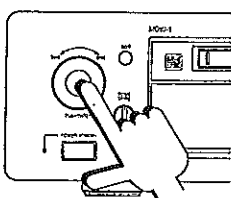


途中でやめるには

本機のSTOPキーをゆっくり3回押します。

ジョグダイヤルの中央部を1回押します。

6. 編集を終了します。

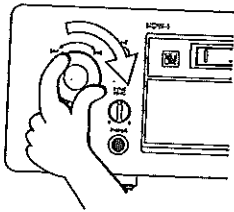


ジョグダイヤルの中央部を1回押します。表示部に“COMPLETE”の文字が出て編集を終了します。

5. 1曲だけ消す (ERASE)

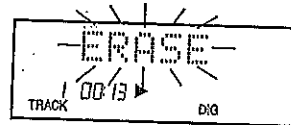
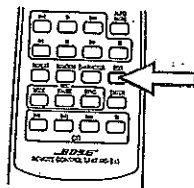
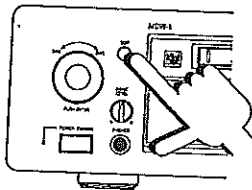
曲番を指定してその曲だけ消します。

1. 消したい曲を選びます。



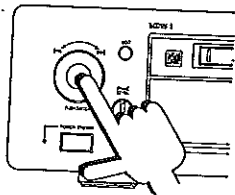
ジョグダイヤルを回して消したい曲を再生します (一時停止状態にしてもできます)。

2. 編集機能の "ERASE" を選びます。



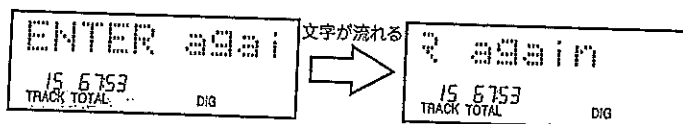
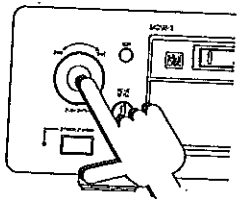
表示部に "ERASE" が点滅するまで数回本機のEDITキーを押します。

3. 消したい曲の曲番を確認します。



ジョグダイヤルの中央部を1回押します (このとき、曲名が入力されていれば表示部に出ますので、まちがいがいいか確認します)。

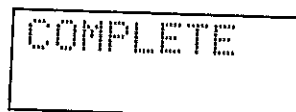
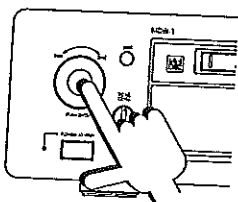
4. 決定します。



途中でやめるには
本機のSTOPキーをゆっ
くり3回押します。

ジョグダイヤルの中央部をもう1回押して、表示部に "ENTER again" の文字を流します (一時停止中に操作を行っている場合は再生を始めますので、曲を聴きながら確認してください)。

5. 編集を終了します。



ジョグダイヤルの中央部をさらにもう1回押すと "COMPLETE" の文字が出て曲が消されます。

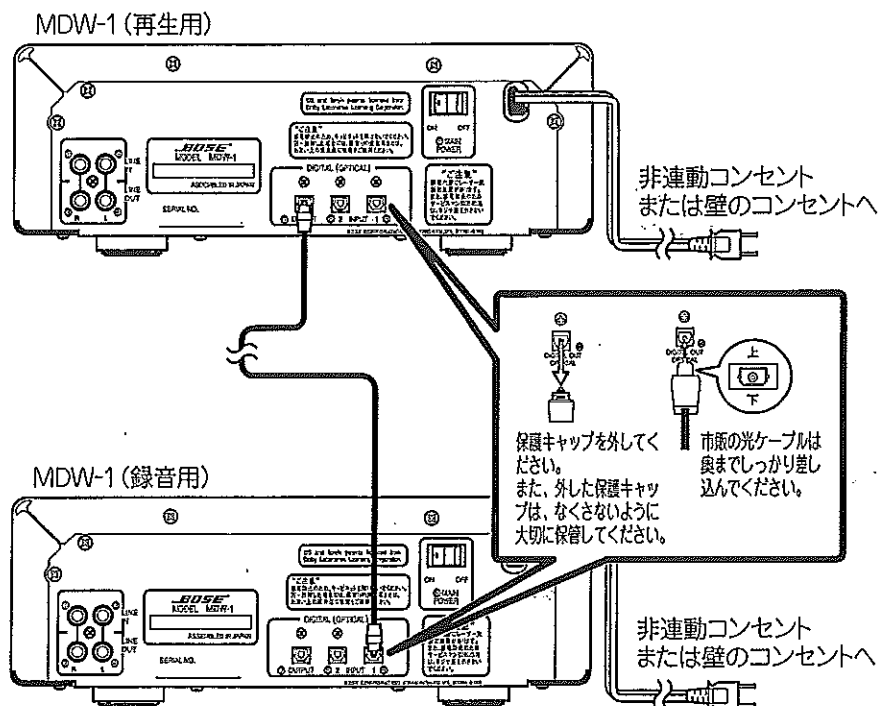
光デジタル出力端子の使い方

本機の光デジタル出力端子からは、サンプリング周波数44.1kHzの信号が出力されます。

●本機の光デジタル信号を外部機器でデジタル録音する場合

1. 外部の機器を接続します。

図のように光デジタルケーブルを使って外部の機器と接続します。光デジタルケーブルの先端はそれぞれの機器に合ったものを別途ご用意ください。MDW-1は角型、EIAJ 標準です。



2. 本機と外部の機器の電源を入れます。

本機の電源の入れ方は12ページを参照してください。

3. 外部の機器の録音の準備をします。

外部の機器に録音するためのMD（またはデジタルオーディオテープ）をセットして録音の準備をします。

※外部の機器の使い方はそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

4. 外部の機器の録音を開始します。

外部の機器の録音を開始してから本機のMDの再生をはじめます。

5. 録音したい曲が終わったら。

録音したいMDや曲が終わったら外部の機器の録音を停止して、本機のMDを停止させます。

気をつけて

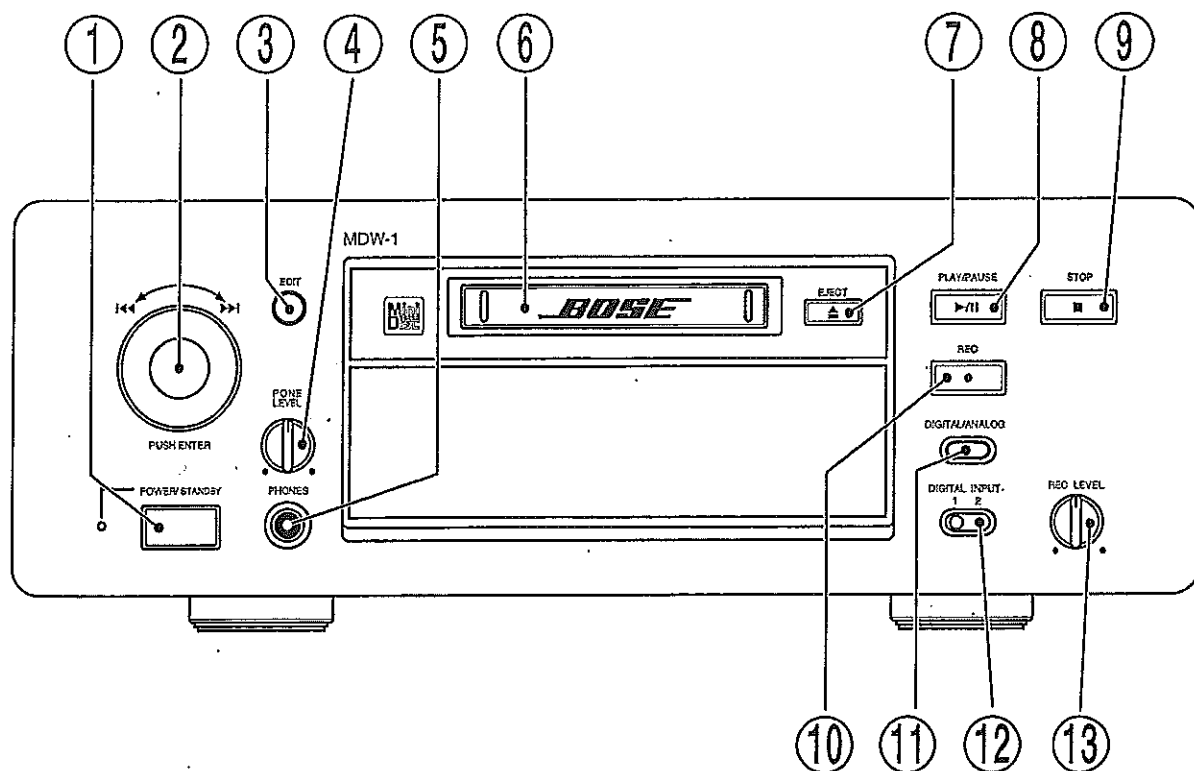
●MDのダビングに関する注意

デジタル機器には著作権保護のための規格SCMSがあります。そのためMDからデジタルでダビングできない場合があります。また、1枚のMD内にCDからデジタル録音した曲とアナログ録音した曲が混在している場合は、このSCMSでデジタル録音した曲をスキップしてダビングされます。SCMSについては13ページを参照してください。

夕

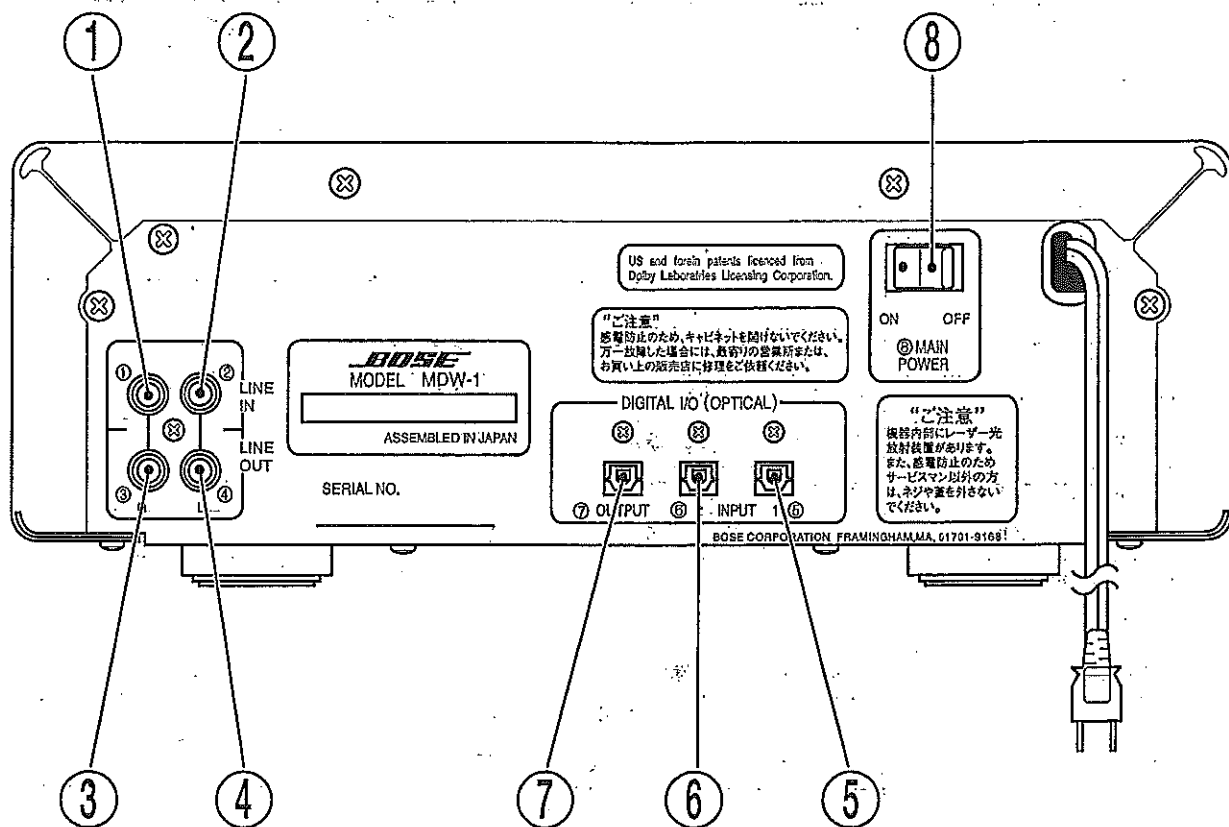
毛

各部の名称および機能 (前面パネル)



- ① **POWER/STANDBY (パワー/スタンバイ) 電源スイッチとSTANDBY (スタンバイ) インジケーター**
1回押すと電源が入り、もう一回押すと電源が切れてSTANDBYインジケーター (赤) が点灯します。
- ② **ジョグダイヤル**
曲を選曲したり、編集内容を選択したり文字を選ぶときに使用します。また、このつまみの中央部を押すことで確定します。
- ③ **EDIT (エディット/編集) キー**
MDの編集をするとき、このキーを押して編集内容を選びます。
- ④ **PHONE LEVEL (ホーンレベル/ヘッドホン音量調整) つまみ**
ヘッドホンの音量を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反時計方向に回すと音量が小さくなります。
- ⑤ **PHONESジャック**
ステレオ標準のヘッドホンプラグが使えます。
- ⑥ **MD挿入口**
MDをここから入れます。
- ⑦ **EJECT (イジェクト) キー**
MDを取り出すとき押します。このキーは電源がスタンバイ状態のときも使うことができます。
- ⑧ **PLAY/PAUSE (プレイ/ポーズ) ▶/|| キー**
MDの再生をするときや、一時停止するときはこのキーを押します。また、本機の電源が入っていないときにMDが本体にセットされていれば、このキーを押すと電源が入り、そのまま頭から再生を始めます。本体にMDがセットされていなければ電源が入り "NO DISC" と文字表示部に表示します。
- ⑨ **STOP (ストップ/停止) キー**
MDの再生や録音を停止するとき押します。
- ⑩ **REC (レック) キー**
このキーを押すと録音待機状態になり、もう一回押すまたは⑧PLAY/PAUSE ▶/|| キーを押すと録音が始まります。
- ⑪ **DIGITAL/ANALOG (デジタル/アナログ入力切替) キー**
アナログ入力と、デジタル入力を切り替えます。このキーは、MDがセットされているときに使えます。
- ⑫ **DIGITAL INPUT (デジタル入力端子切替スイッチ)**
背面のDIGITAL (OPTICAL) INPUT (光デジタル入力端子) の1と2を切り替えます。
- ⑬ **REC LEVEL (録音音量調整) つまみ**
アナログ録音時の録音レベルを調整するつまみです。時計方向に回すとレベルが大きくなり、反時計方向に回すとレベルが小さくなります。標準は「11時」の辺りです。

各部の名称および機能 (背面パネル)



① ② LINE IN (ラインイン)

外部からの信号を入力する端子です。

③ ④ LINE OUT (ラインアウト)

MDの再生信号が出力されます。

⑤ DIGITAL I/O (OPTICAL) INPUT (光デジタル入力端子) 1

光デジタル信号を入力する端子です。市販の角型、EIAJ 標準
光デジタルケーブルを使って、この端子に接続します。

⑥ DIGITAL I/O (OPTICAL) INPUT (光デジタル入力端子) 2

光デジタル信号を入力する端子です。市販の角型、EIAJ 標準
光デジタルケーブルを使って、この端子に接続します。

⑦ DIGITAL I/O (OPTICAL) OUTPUT (光デジタル出力端子)

サンプリング周波数44.1kHzの光デジタル信号が出力されます。
市販の角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使って、この端
子に接続します。

⑧ MAIN POWER (主電源) スイッチ

製品の主電源のON/OFFを行います。

パネルの文字表示一覧表

表 示	状 態
BLANK DISC	購入したばかりのMDまたは、全曲消去した録音用MDが入っている場合
NO DISC	MDが入っていない場合
No NAME	MDにディスクネームまたは、トラックネームが付いていない場合
TOC Read	MDを入れてTOC情報を読んでいる場合
DISC PROTECTED	誤消去防止状態になっているMDを録音しようとした場合
DISC ERROR	ディスクにキズがあったり、TOC情報が読めない場合
DISC FULL	ディスク上に録音できるスペースがない場合
CANNOT COMBINE	EDITモードCOMBINEを選択したとき、前後のトラックが8秒以内の場合
TRACK PROTECTED	EDITモードCOMBINEを選択したとき、前後のトラックがプロテクトモードになっている場合
PLAYBACK DISC	再生専用MDに録音・編集しようとした場合
SCMS CANNOT COPY	デジタルコピー禁止のディスクを、デジタルコピーしようとした場合
DIGITAL IN UNLOCK	デジタル録音中、デジタル入力がない場合
NON AUDIO CANNOT COPY	音楽データ以外を、デジタルコピーしようとした場合
POSITION	EDITモードDIVIDEを選択したときのポジションデータ
UTOOC writing	DISCに録音したり編集した後、EJECTしたり電源をOFFしたときUTOOCエリアにデータを書き込む
DIGITAL INPUT	インプットモードがデジタルに変わった場合
ANALOG INPUT	インプットモードがアナログに変わった場合
AUTO MARKING MODE	トラックマーキングがオートマーキングに変わった場合
MANUAL MARKING MODE	トラックマーキングがマニュアルに変わった場合
REC MODE STEREO	録音モードがノーマルに変わった場合
REC MODE MONO	録音モードがモノ(LP)に変わった場合
SYNC REC	SYNC RECポーズ状態の場合
SYNC REC TIMEOUT	SYNC RECの状態ですタートしなかった場合
PRESS STOP	REC→STOP、POWER、EJECTキーを押した場合
CENTER CHANNEL CANCEL ON	センターチャンネル キャンセルがオンになった場合
CENTER CHANNEL CANCEL OFF	センターチャンネル キャンセルがオフになった場合
DISC NAME EDIT	DISC NAME EDITモード時
DISC NAME ERASE	DISC NAME ERASEモードの場合
DISC NAME ERASE ENTER AGAIN	DISC NAME ERASE時の確定
TRACK NAME EDIT	TRACK NAME EDITモードの場合
DIVIDE	DIVIDEモード時
POSITION	DIVIDEモード時のポジション移行時
XXXX POINT	DIVIDEモード時のポジション指定時
COMBINE	COMBINEモード時
XXXX+XXXX	COMBINEモード 編集中
MOVE	MOVEモード時
XXXX←XXXX	MOVEモード時 編集中
ERASE	ERASEモード時
ENTER again	モード確定時
ALL ERASE	ALL ERASEモード時
COMPLETE	各EDITモードでの終了時

故障かな?と思ったら

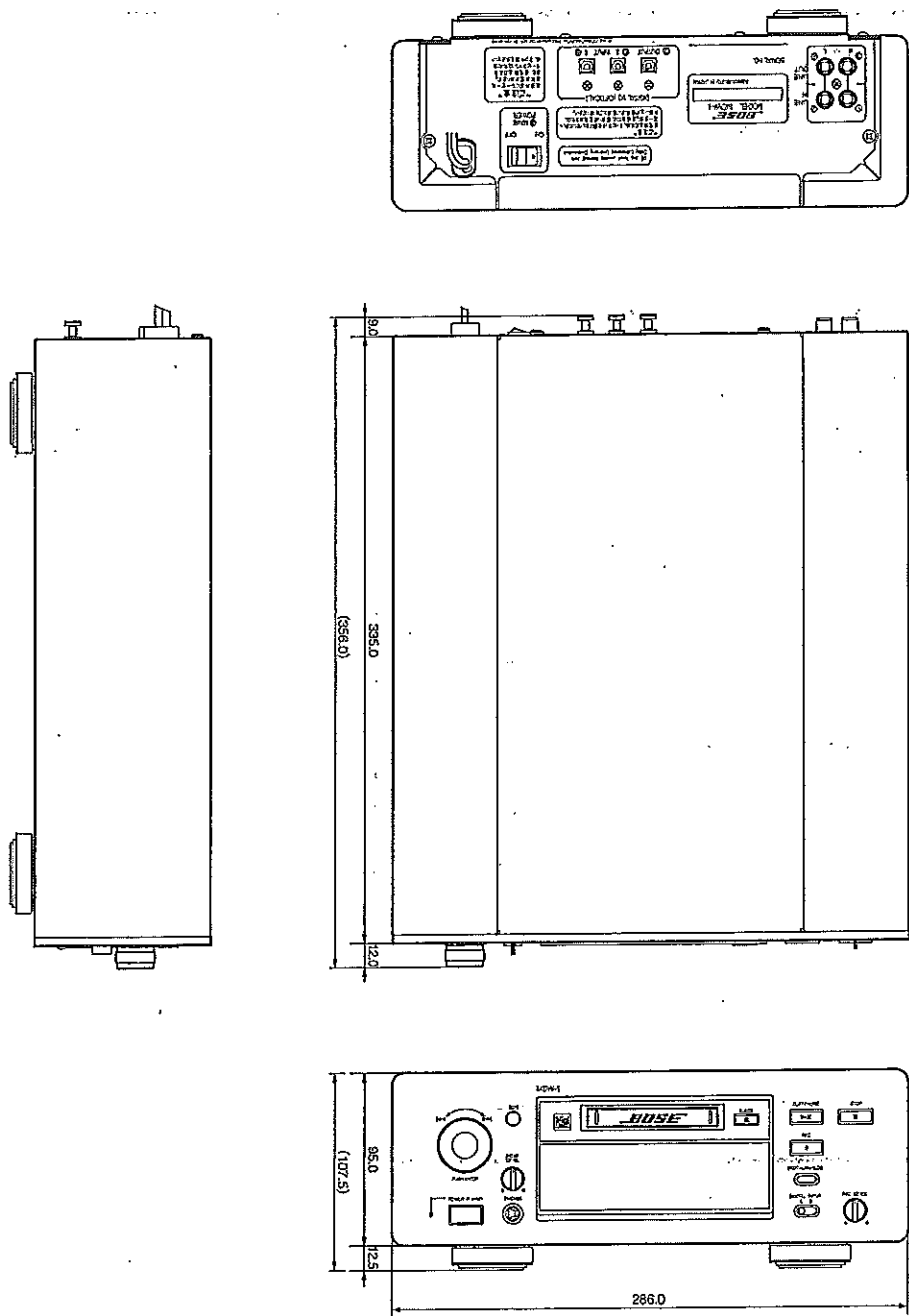
症 状	原 因	処 置
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがしっかり差し込まれていないか、外れている。 MAIN POWER(主電源)がONになっていない。 すべてのコードが接続されていない。 ディスクが汚れている 	<ul style="list-style-type: none"> もう一度しっかり差し込み直してください。 MAIN POWERをONにしてください。 もう一度コードの接続を確認してください。 新しいディスクと取り替えてください。
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがしっかり差し込まれていないか、外れている。 MAIN POWER(主電源)がONになっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> もう一度しっかり差し込み直してください。 MAIN POWERをONにしてください。
再生できない	<ul style="list-style-type: none"> 結露(内部に水滴が付着)している。 ディスクを逆向きに差し込もうとしている。 何も録音されていないディスクが入っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスクを取りだし、そのまま数時間置いて室内の湿度になじませてください。 ディスクを矢印の向きに合わせて正しく差し込んでください。 録音されているディスクと取り替えてください。
録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ディスクの誤消去防止用の孔が開いている。 機器が正しく接続されていない。 アナログ入力録音の録音レベルが低すぎる。 再生専用ディスクが入っている。 ディスクの残り時間がない。 録音中に電源コードが抜かれた、または停電になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤消去防止つまみを戻して孔を閉じてください。 正しく接続しなおしてください。 録音レベルを調整してください。 録音用ディスクと取り替えてください。 残り時間の十分あるディスクと取り替えるか、不要な曲を消去してください。 それまでの録音内容は失われるおそれがあります。始めから録音しなおしてください。
雑音が多い	<ul style="list-style-type: none"> テレビなど強い磁気を帯びた物の近くに置いている。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビなどから十分離して設置してください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボース株式会社、修理担当部門までご連絡ください。

☎ 修理部門 042-357-5250
 パーツ部門 042-357-5260

寸法図



単位=mm

仕 様

電 源 電 圧	AC100V (50/60Hz)
使 用 温 度 範 囲	-10~50℃
記 録 方 式	磁界変調オーバーライト方式
読 み 取 り 方 式	非接触光学読み取り (半導体レーザー使用)
レ ー ザ ー	半導体レーザー (λ=780nm)
最大録音再生時間	74分 (ステレオ)、148分 (モノラル)
エ ラ ー 訂 正 方 式	アドバンスドクロスインターリーブリードソロモンコード
サンプリング周波数	44.1kHz (32kHz、48kHz入力時は44.1kHzに変換)
コ ー デ ィ ン グ	アダプティブトランスフォームアコースティックコーディング
変 調 方 式	EFM
回 路 方 式	20bit ΔΣ変換 D/A、A/Dコンバーター
周 波 数 特 性	20Hz~20kHz±0.6dB
ダイナミックレンジ	93dB以上
S N 比	95dB以上
セパレーション	90dB以上 (1kHz)
歪 率	0.01%以下
ワウ・フラッター	水晶精度 (測定限界値以下)
入 力 感 度 /	LINE : 150mV / 47kΩ
入力インピーダンス	
光デジタル入力端子	角型、EIAJ 標準
光 入 力 レ ベ ル	-19dBm
光デジタル出力端子	角型、EIAJ 標準
光 出 力 レ ベ ル	-17dBm
出 力 レ ベ ル	LINE : 800mV (rms) ヘッドホン : 10mW / 32Ω
消 費 電 力	13W
サ イ ズ	286 (W) × 107.5 (H) × 370 (D) mm
重 量	4.7kg

保 証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®
Better sound through research®

ボーズ株式会社

〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル TEL 03-5489-0955

- 仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権上、権利者に無断で使用できません。

98/09 SG 367K851110

OM-1132
98-9-F-A-10-M